

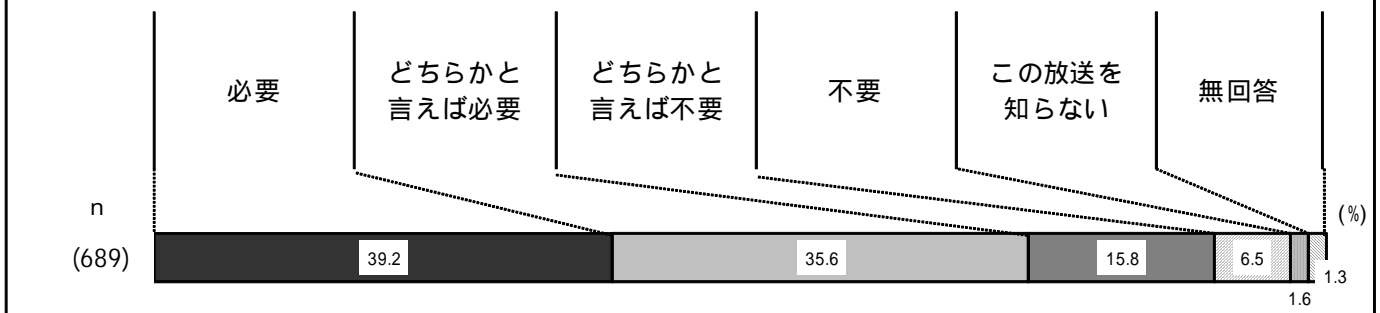
7. 防災・防犯対策

(1) 現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)の必要性

「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】が7割強

問19 次の防災行政無線による放送について、放送時間や必要性などどのように思いますか。下の表の中の番号に1つだけをつけてください。

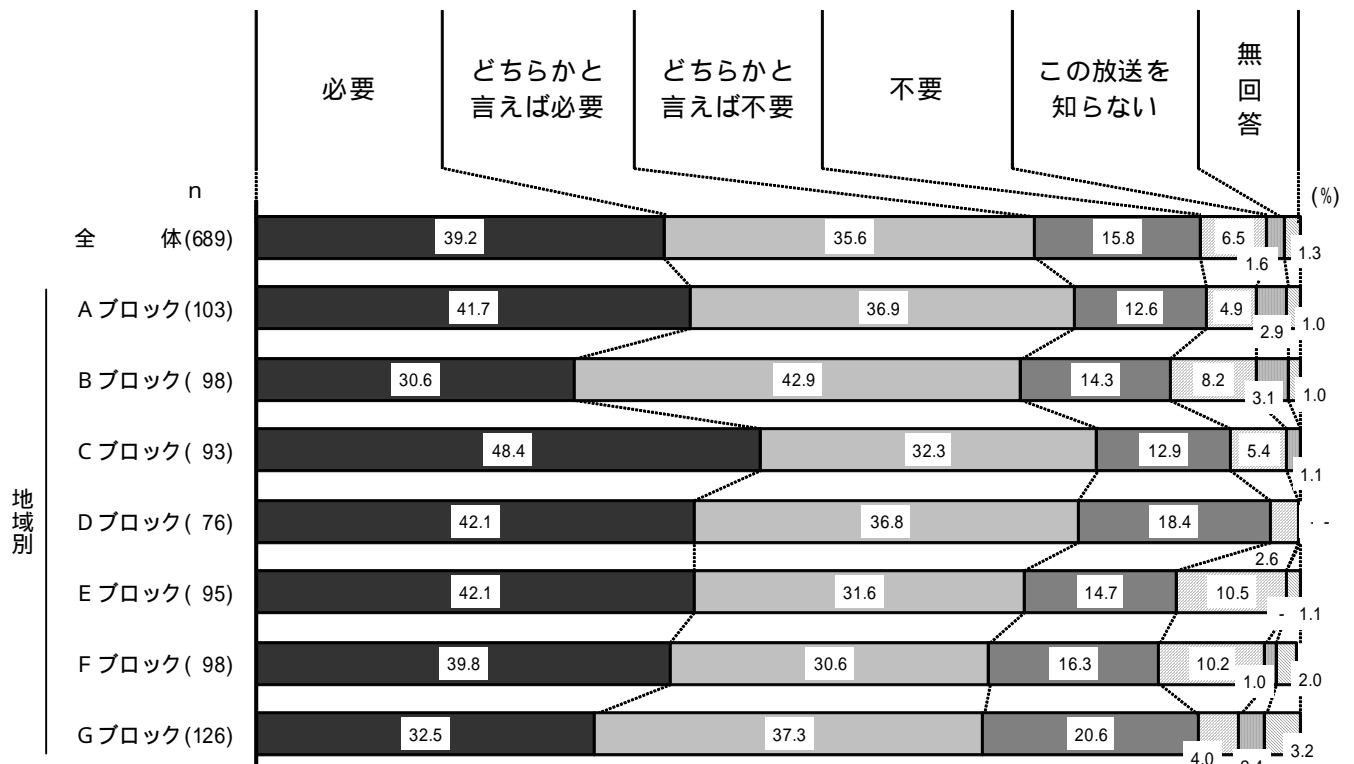
< 図表 7 - 1 > 現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)の必要性



現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)の必要性について尋ねたところ、「必要」(39.2%)が最も割合が高く、「どちらかと言えば必要」(35.6%)を合わせた【必要】(74.8%)が7割を超えている。「どちらかと言えば不要」(15.8%)、「不要」(6.5%)を合わせた【不要】(22.3%)は2割強となっている。「この放送を知らない」(1.6%)の割合はわずかだった。(図表7-1)

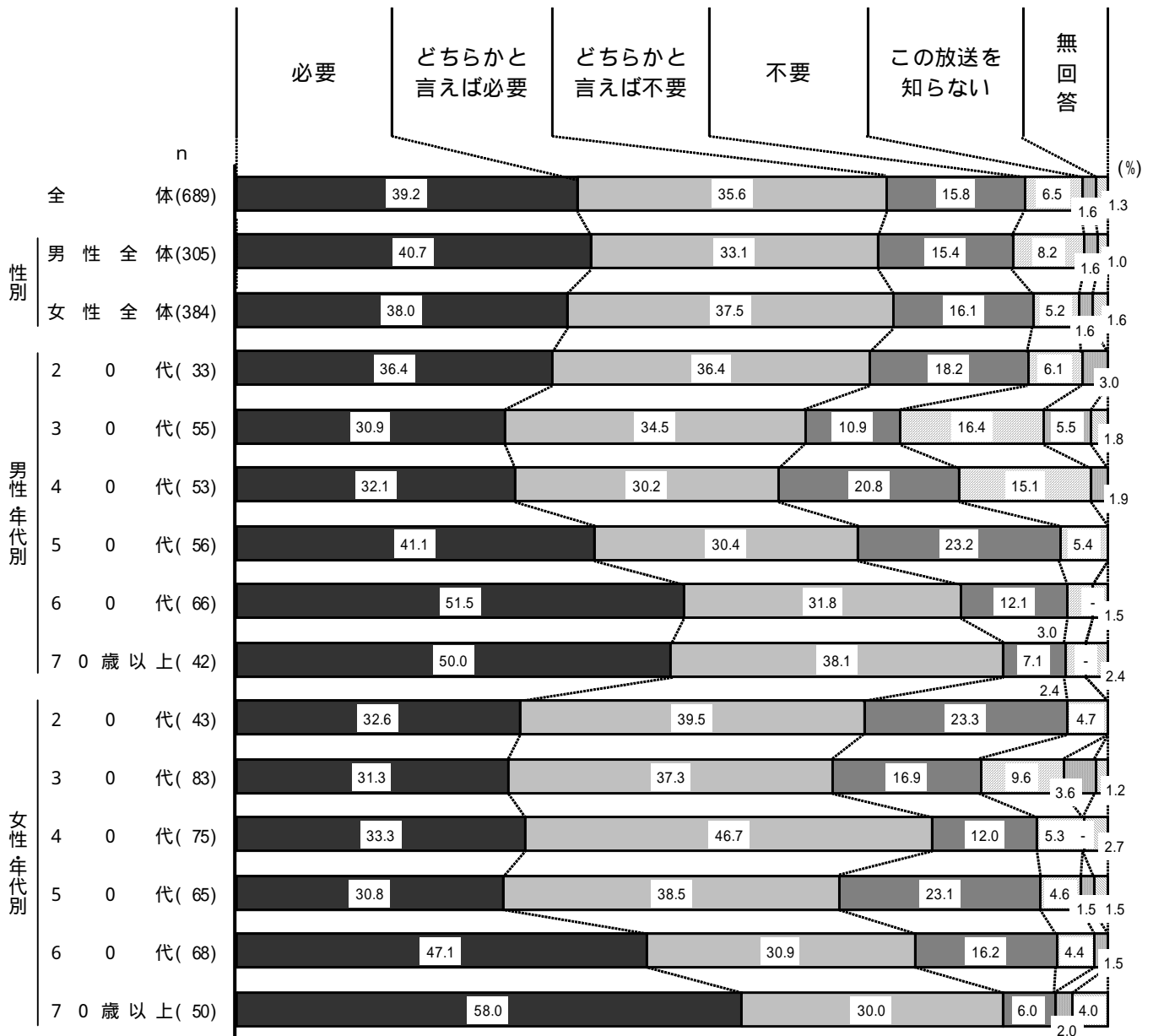
地域にみると、「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】の割合が最も低いGブロック(69.8%)でも約7割となった。(図表7-2)

< 図表 7 - 2 > 現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)の必要性 / 地域別



性別で見ると、男女間の差異はほぼみられない。性・年代別で見ると、「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は男女ともに70歳以上で高い割合（男性：88.1%、女性：88.0%）を示し、30代（男性：65.4%、女性：68.6）が一番低い割合を示す。（図表7-3）

< 図表7-3 > 現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)の必要性 / 性別、性・年代別

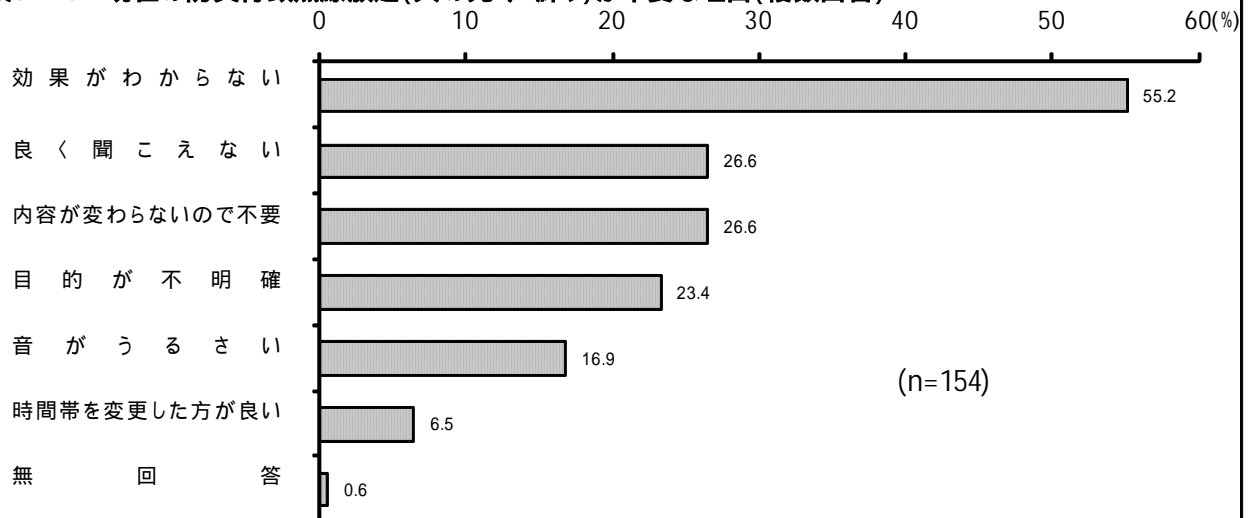


(2) 現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)が不要な理由

「効果がわからない」が5割半ば

問19で、「3.どちらかと言えば不要」、「4.不要」を選んだ方
その理由を下の中からあてはまるものを全て選んでください。

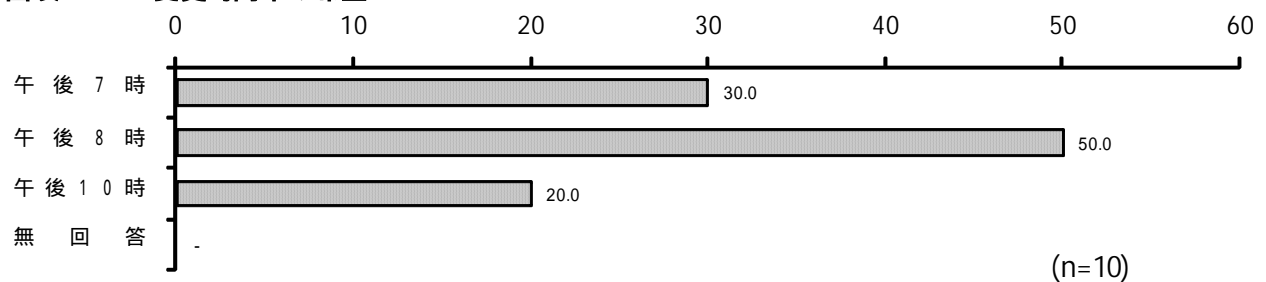
<図表7-4>現在の防災行政無線放送(火の元・戸締り)が不要な理由(複数回答)



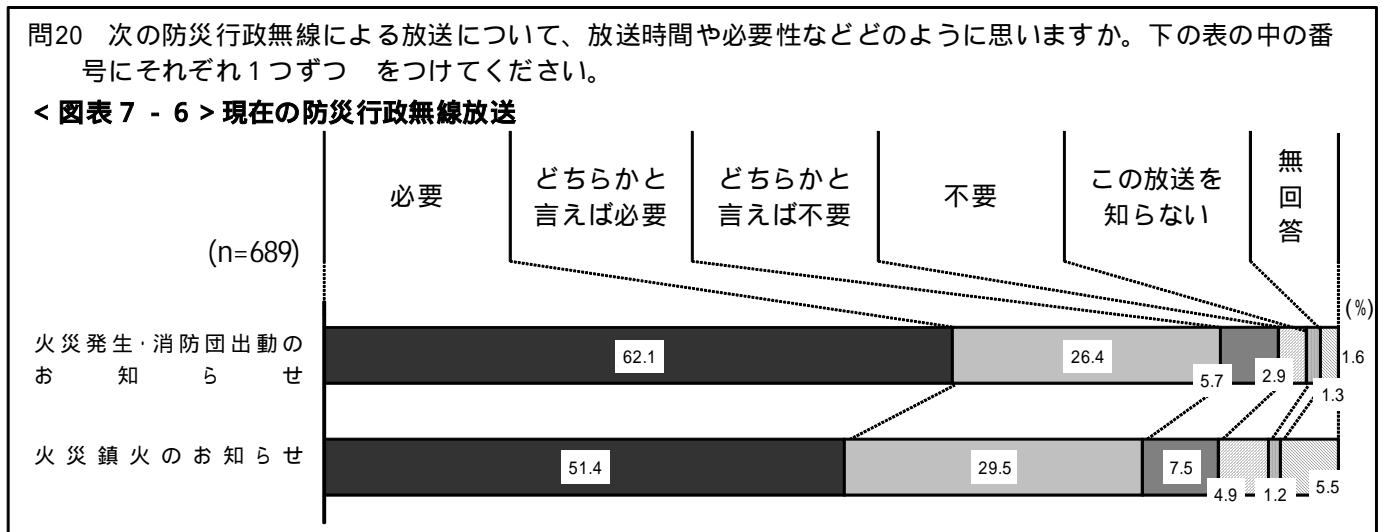
問19で、「3.どちらかと言えば不要」、「4.不要」を選んだ方に、その理由を聞いたところ、「効果がわからない」(55.2%)が最も多く、「よく聞こえない」(26.6%)、「内容が変わらないので不要」、「目的が不明確」(23.4%)が2割台、以下、「音がうるさい」(16.9%)、「時間を変更した方が良い」(6.5%)という結果となった。(図表7-4)

また、「時間帯を変更した方が良い」を選んだ方に変更時間帯を「午後7時」、「午後8時」、「午後10時」の3択で尋ねたところ、「午後7時」が30.0%、「午後8時」が50.0%、「午後10時」が20.0%という結果となった。(図表7-5)

<図表7-5>変更時間帯の希望



(3) 現在の防災行政無線放送(火災発生・消防団出動、火災鎮火のお知らせ)の必要性
 どちらの放送も、「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】が8割以上



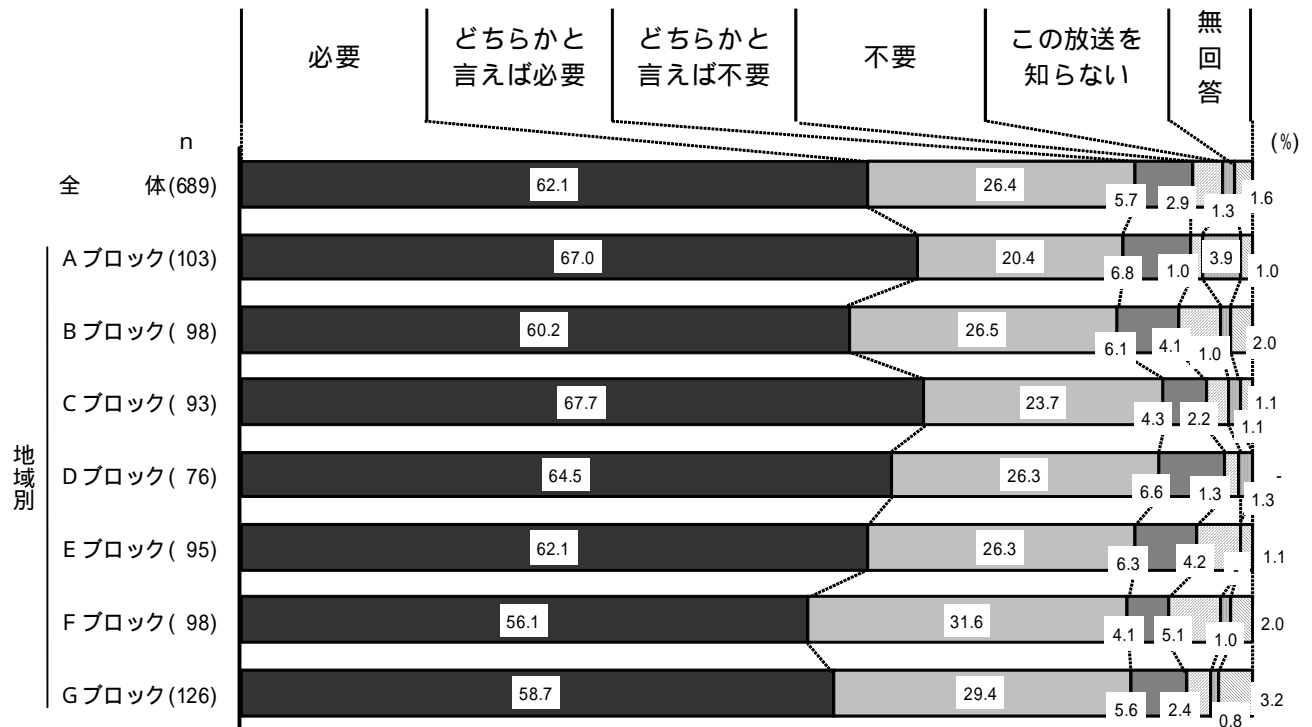
現在の防災行政無線放送のうち、火災発生・消防団出動のお知らせの必要性について尋ねたところ、「必要」(62.1%)と「どちらかと言えば必要」(26.4%)を合わせた【必要】(88.5%)が9割弱となっている。「どちらかと言えば不要」(5.7%)と「不要」(2.9%)を合わせた【不要】(8.6%)は1割弱、「この放送を知らない」(1.3%)はごくわずかだった。

火災鎮火のお知らせの必要性については、「必要」(51.4%)と「どちらかと言えば必要」(29.5%)を合わせた【必要】(80.9%)は約8割となった。「どちらかと言えば不要」(7.5%)と「不要」(4.9%)を合わせた【不要】(12.4%)は1割弱、「この放送を知らない」(1.2%)はごくわずかだった。

火災発生・消防団出動のお知らせでの【必要】(88.5%)の割合が、火災鎮火のお知らせでの【必要】(80.9%)の割合より約8ポイント上回った。(図表7-6)

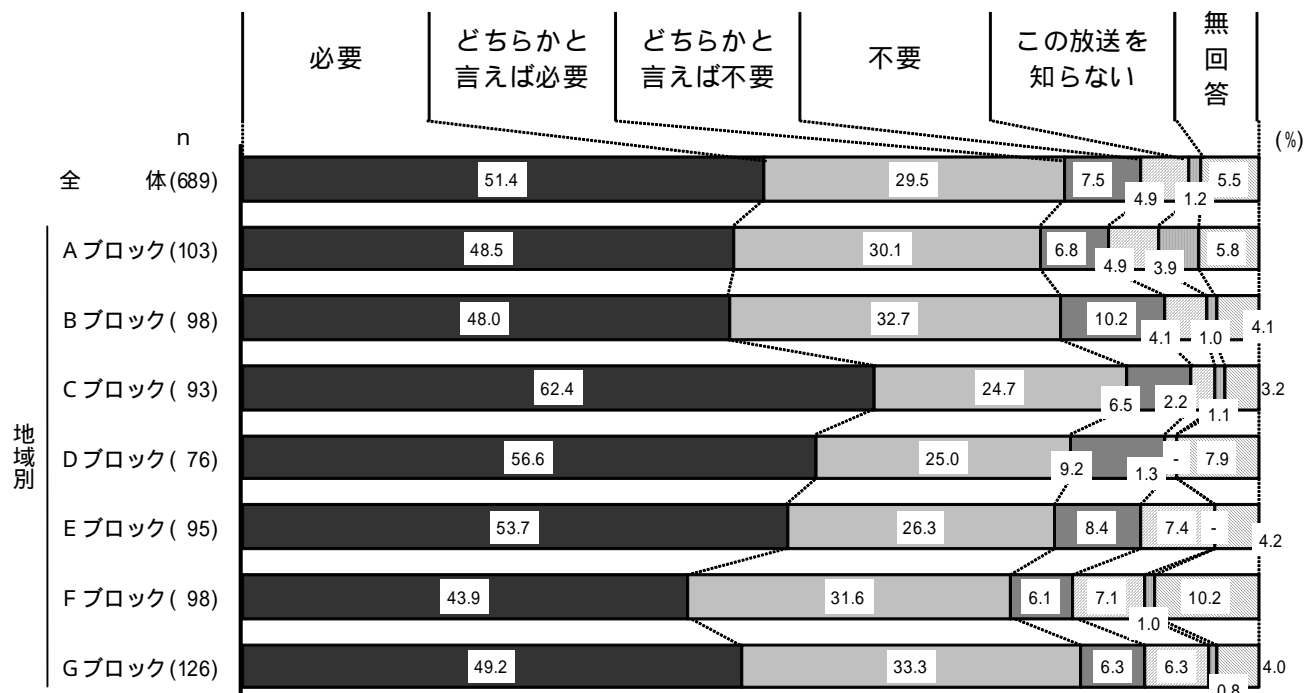
それぞれを地域別にみると、火災発生・消防団出動の必要性については、「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】の割合は、Cブロック（91.4%）で最も割合が高く、すべての地域で8割以上となっている。（図表7-7）

< 図表7-7 > 現在の防災行政無線放送(火災発生・消防団出動の必要性) / 地域別



火災鎮火のお知らせの必要性については、Cブロック（87.1%）で最も割合が高く、Fブロック（75.5%）を除き、約8割となっている。（図表7-8）

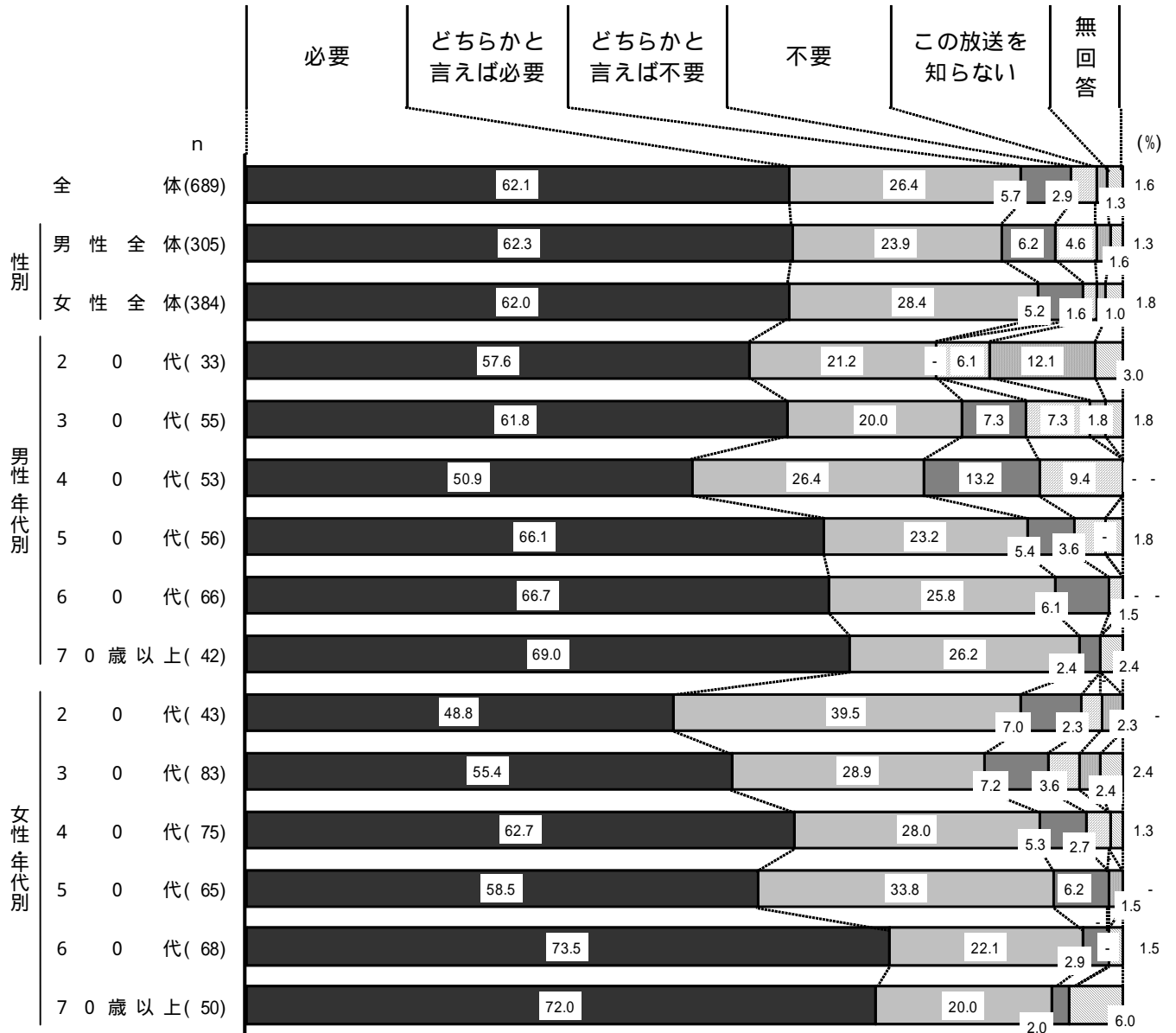
< 図表7-8 > 現在の防災行政無線放送(火災鎮火のお知らせの必要性) / 地域別



火災発生・消防団出動の必要性を性別でみると、ほぼ差異はみられない。性・年代別では、女性の60代(95.6%)が最も割合が高く、最も割合が低かったのは男性の40代(77.3%)となっている。

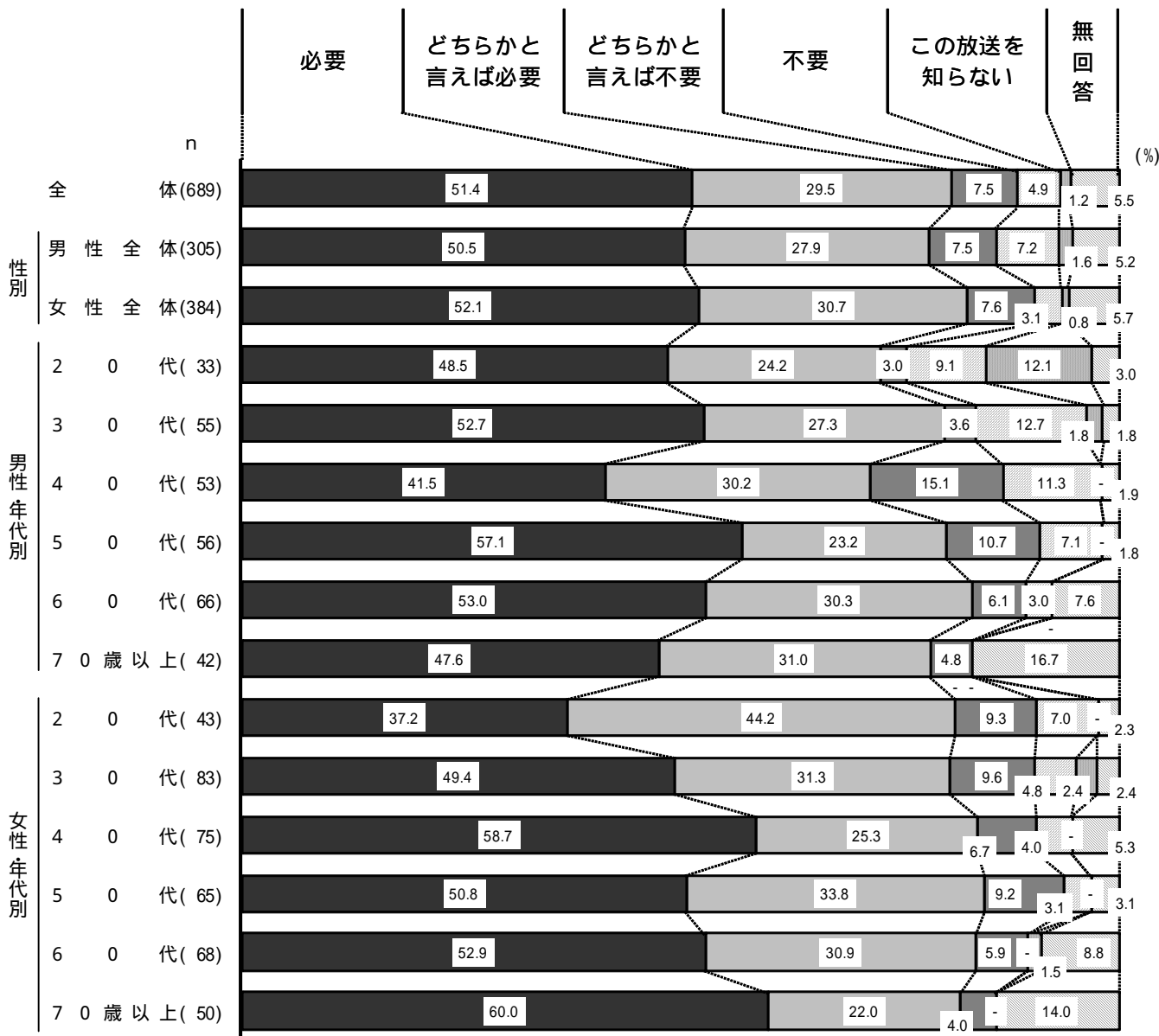
< 図表7 - 9 > 火災発生・消防団出動の必要性 / 性別、性・年代別

(図表7 - 9)



火災鎮火のお知らせの必要性を性別でみると、ほぼ差異はみられない。性・年代別では、女性の50代(84.6%)で最も割合が高く、男性の40代(71.7%)は最も割合が低くなっている。(図表7-10)

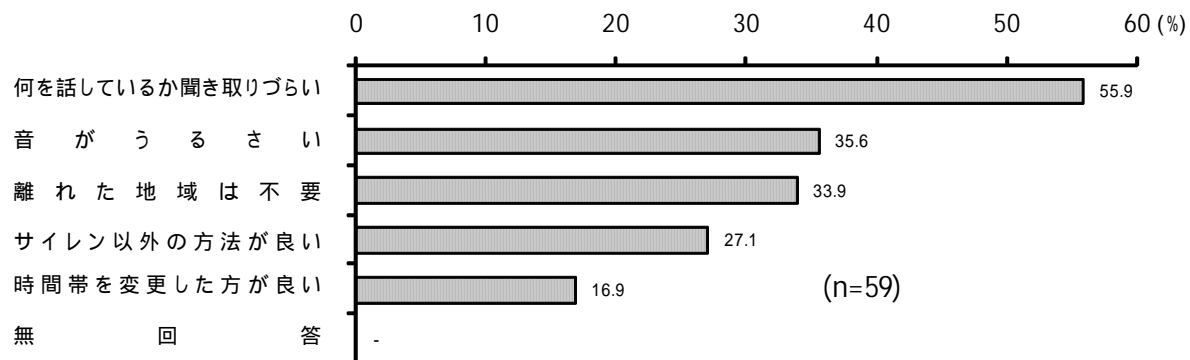
<図表7-10>火災鎮火のお知らせの必要性/性別、性・年代別



(4) 現在の防災行政無線放送(火災発生・消防団出動、火災鎮火のお知らせ)が不要な理由
火災発生、鎮火時の放送のどちらも「何を話しているか聞き取りづらい」が5割台

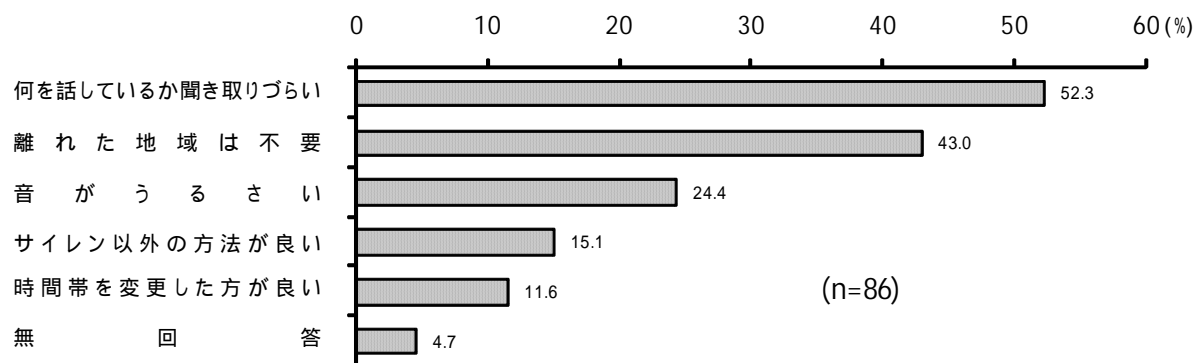
問20の(火災発生・消防団出動のお知らせ)で「3.どちらかと言えば不要」、「4.不要」を選んだ方。その理由を下の中からあてはまるものを全て選んでください。

<図表7-11> 火災発生・消防団出動のお知らせが不要な理由(複数回答)



問20の(火災鎮火のお知らせ)で「3.どちらかと言えば不要」、「4.不要」を選んだ方。その理由を下の中からあてはまるものを全て選んでください。

<図表7-12> 火災鎮火のお知らせが不要な理由(複数回答)



問20の(ア)火災発生・消防団出動のお知らせで、「3.どちらかと言えば不要」、「4.不要」を選んだ方へその理由を尋ねたところ、「何を話しているか聞き取りづらい」(55.9%)が最も割合が高く、「音がうるさい」(35.6%)、「離れた地域は不要」(33.9%)、「サイレン以外の方法が良い」(27.1%)、「時間帯を変更した方が良い」(16.9%)となっている。(図表7-11)

問20の(イ)火災鎮火時のお知らせで、「3.どちらかと言えば不要」、「4.不要」を選んだ方へその理由を尋ねたところ、「何を話しているか聞き取りづらい」(52.3%)が約半数、「離れた地域は不要」(43.0%)、「音がうるさい」(24.4%)、「サイレン以外の方法が良い」(15.1%)、「時間帯を変更した方が良い」(11.6%)となっている。(図表7-12)

「時間帯を変更して放送」を選んだ方へ変更時間帯の希望を尋ねたところ、割合の高いものは図表7-13のようになったが、「時間帯を変更して放送を」選んだ方が『火災発生・消防団出動のお知らせ』で8件、『火災鎮火のお知らせ』で10件と極端に少なかった。

<図表7-13> 変更時間帯の希望

(ア) 火災発生・消防団出動のお知らせ (表中、回答肢の前の数字は%)

朝の放送開始時間 (n=8)		夜の放送終了時間 (n=8)	
- 午前4時以前	37.5	午前8時以降	62.5
- 午前5時以降	12.5	午前9時以降	12.5
12.5	午前6時以降	12.5	午後8時まで
25.0	午前7時以降	25.0	午後9時まで
		-	午後10時まで
		-	午後11時まで
		-	無回答

(イ) 火災鎮火のお知らせ (表中、回答肢の前の数字は%)

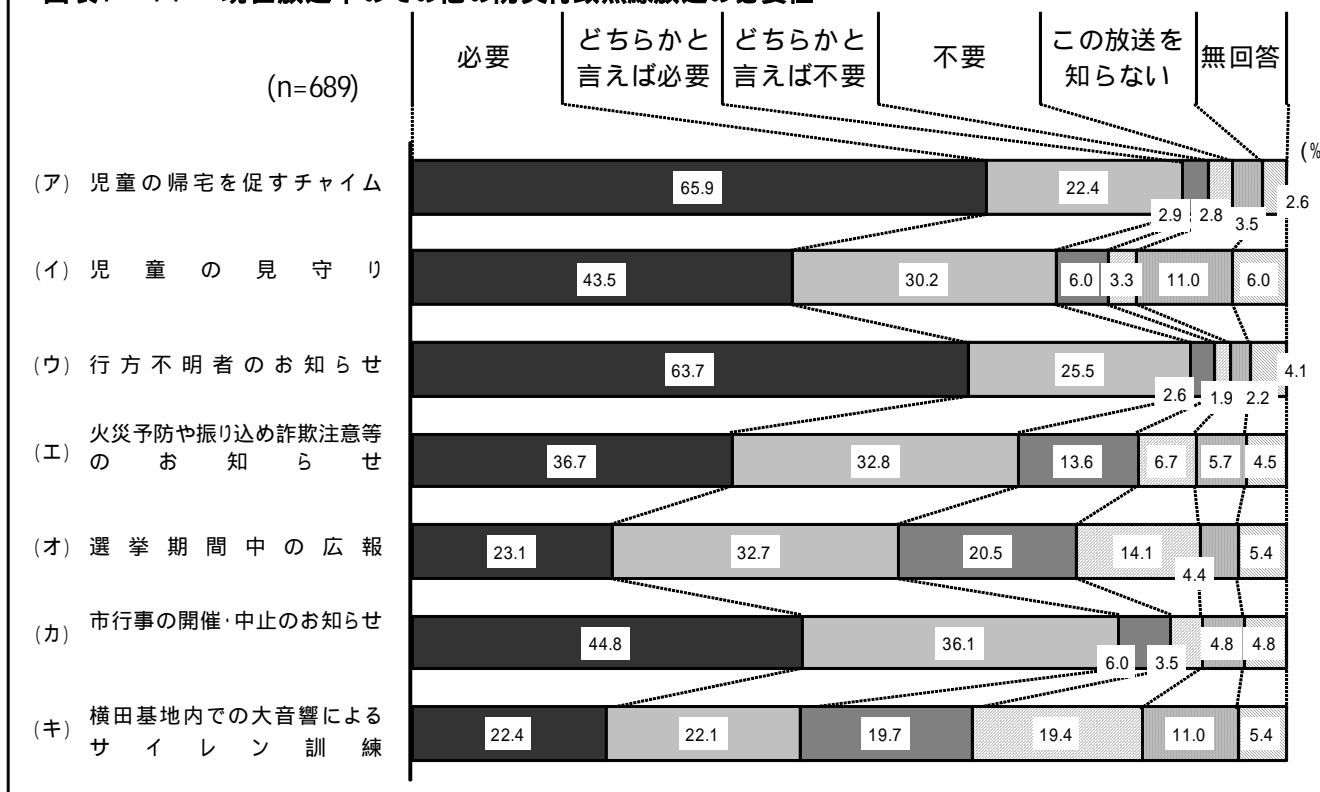
朝の放送開始時間 (n=10)		夜の放送終了時間 (n=10)	
- 午前4時以前	20.0	午前8時以降	50.0
- 午前5時以降	10.0	午前9時以降	10.0
20.0	午前6時以降	20.0	午後8時まで
30.0	午前7時以降	20.0	午後9時まで
		30.0	午後10時まで
		-	午後11時まで
		-	無回答

(5) その他の防災行政無線放送と、新しい放送内容案の必要性(現在放送中のもの)

児童の帰宅を促すチャイムと、行方不明者のお知らせで「必要」の割合が6割台

問21 次の防災行政無線による放送について、どのように思いますか。次の(ア)から(ツ)の項目について、それぞれ1つずつ選んで下の表の中の番号にをつけてください。

<図表7-14> 現在放送中のその他の防災行政無線放送の必要性



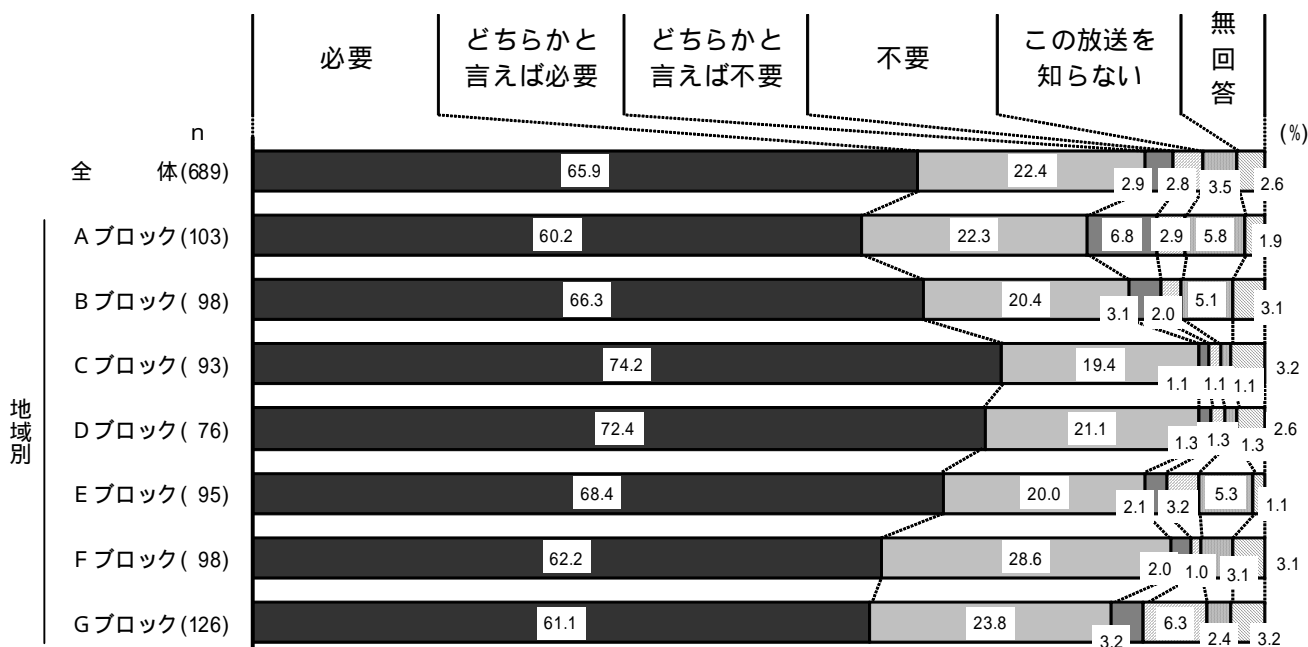
現在放送中のその他の防災行政無線放送の必要性について尋ねたところ、児童の帰宅を促すチャイムの「必要」(65.9%)、行方不明者のお知らせの「必要」(63.7%)の割合が6割台となっている。「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】の割合は、『児童の帰宅を促すチャイム』(88.3%)、『行方不明者のお知らせ』(89.2%)、『市行事の開催・中止のお知らせ』(80.9%)で8割を超えている。「不要」と「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】は『横田基地内での大音響によるサイレン訓練』(39.1%)で約4割、『選挙期間中の広報』(34.6%)で3割半ば、『火災予防や振り込め詐欺注意等のお知らせ』(20.3%)が約2割と他の項目に比べて高い割合を示す。(図表7-14)

以下、それぞれの項目について地域別にみてる。

(ア) 児童の帰宅を促すチャイムの必要性

「必要」と「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はCブロック(93.6%)、Dブロック(93.5%)、Fブロック(90.8%)で9割を超えている。(図表7-15)

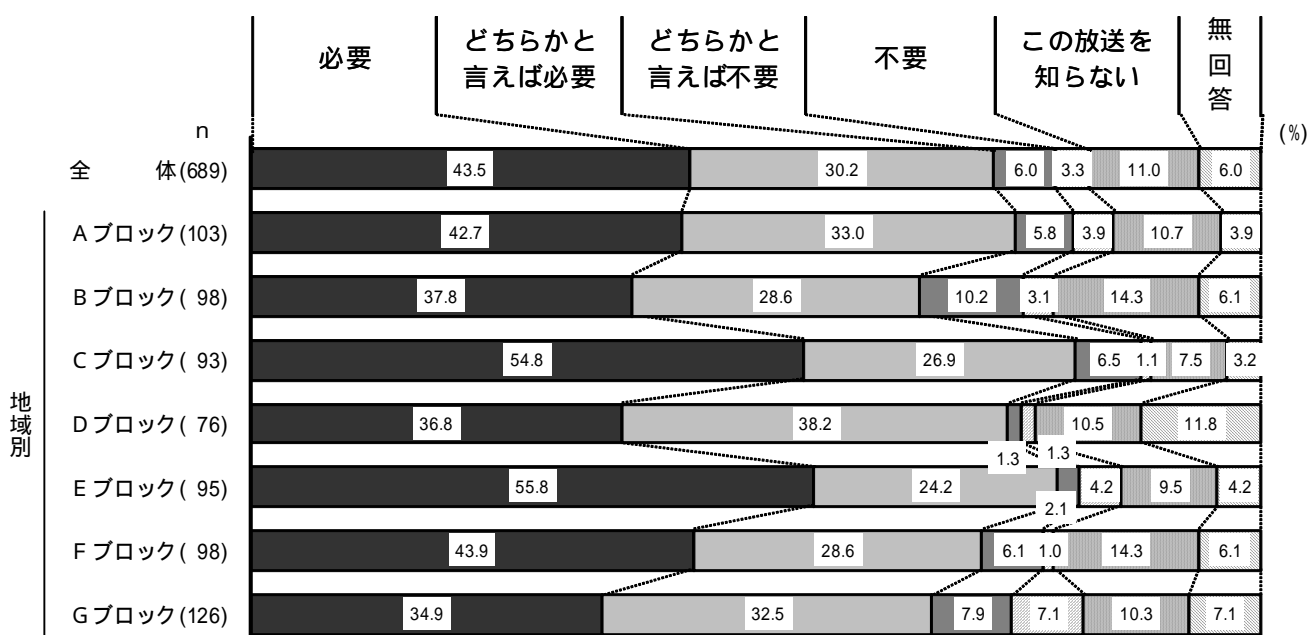
<図表7-15> 児童の帰宅を促すチャイムの必要性 / 地域別



(イ) 児童の帰宅を促すチャイムの必要性

「必要」と、「どちらかと言えば必要」【必要】は、Cブロック(81.7%)、Eブロック(80.0%)で約8割となっている。全体の「この放送を知らない」の割合(11.0%)が、現在放送中のものとして尋ねた全項目の中で高い割合を示した。(図表7-16)

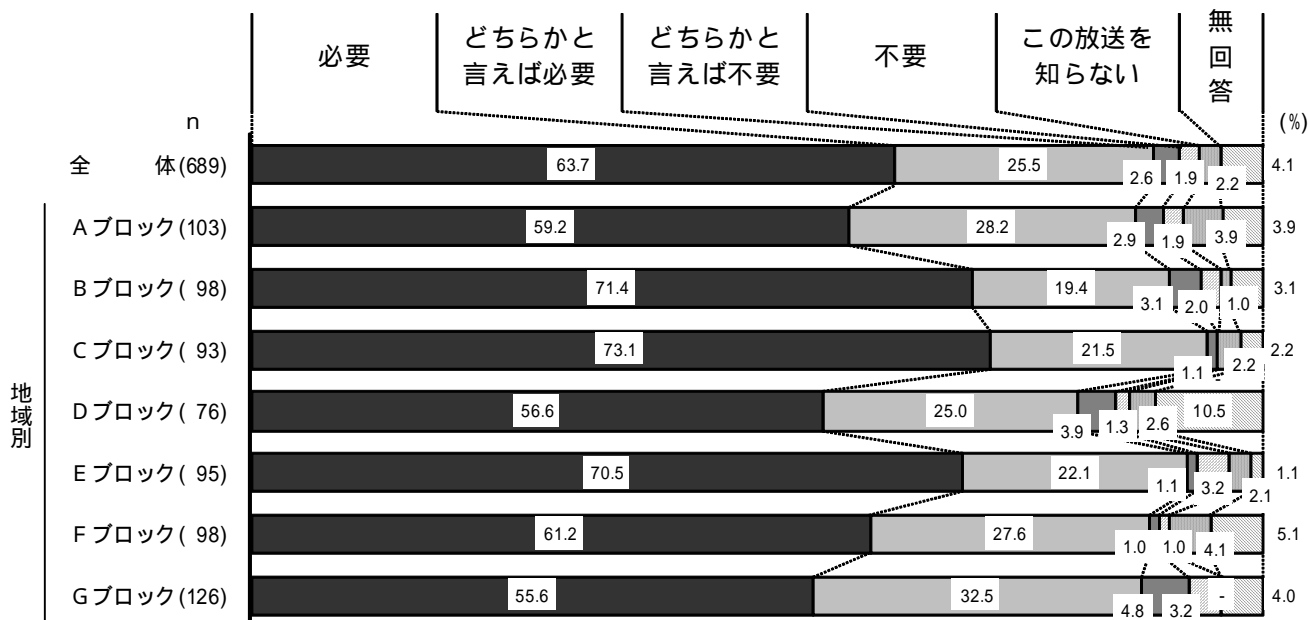
<図表7-16> 児童の見守りの必要性 / 地域別



(ウ) 行方不明者のお知らせの必要性

「必要」と、「どちらかと言えば必要」【必要】の割合は、Cブロック(94.6%)が最も割合が高く、その他の地区でも凡そ9割前後となっている。【必要】の割合は、現在放送中のものとして尋ねた全項目の中で一番高い割合となっている。(図表7-17)

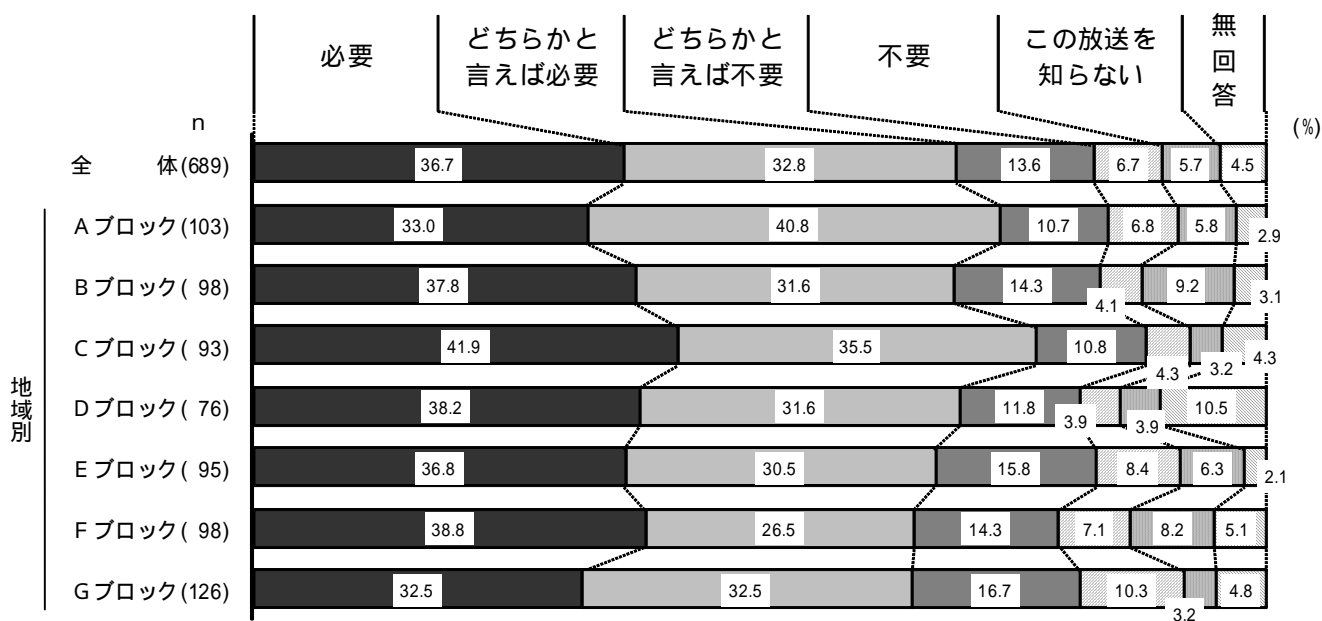
<図表7-17> 行方不明者のお知らせの必要性 / 地域別



(エ) 火災予防や振込め詐欺注意等のお知らせの必要性

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】の割合はCブロック(77.4%)が最も割合が高く7割代後半、Aブロック(73.8%)が7割台前半となっている。「不要」、「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】はEブロック(24.2%)、Fブロック(21.4%)、Gブロック(27.0%)が2割を超えている。(図表7-18)

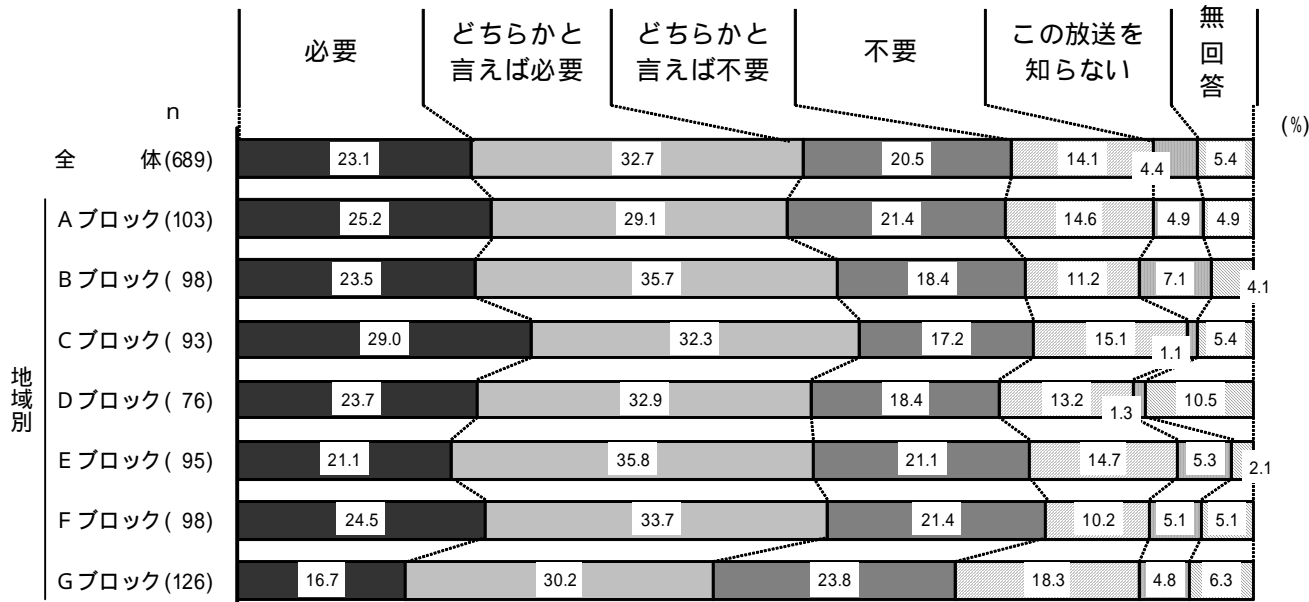
<図表7-18> 火災予防や振込め詐欺注意等のお知らせの必要性 / 地域別



(オ) 選挙期間中の広報の必要性

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はCブロック(61.3%)が最も割合が高く、約6割となっている。「不要」、「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】は、Gブロック(42.1%)で最も割合が高く、その他の地域でも凡そ3割以上となった。(図表7-19)

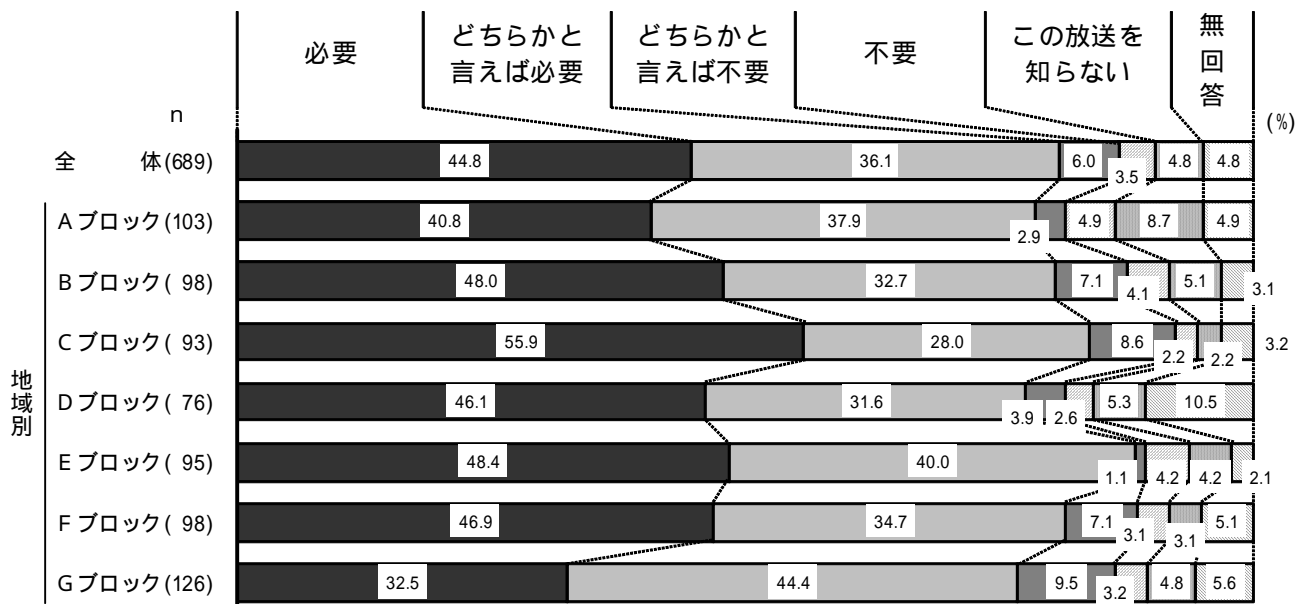
<図表7-19> 選挙期間中の広報の必要性/地域別



(カ) 市行事の開催・中止のお知らせの必要性

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】の割合が最も高かったのはEブロック(88.4%)で約9割となり、その他の地域でも凡そ8割程度となっている。(図表7-20)

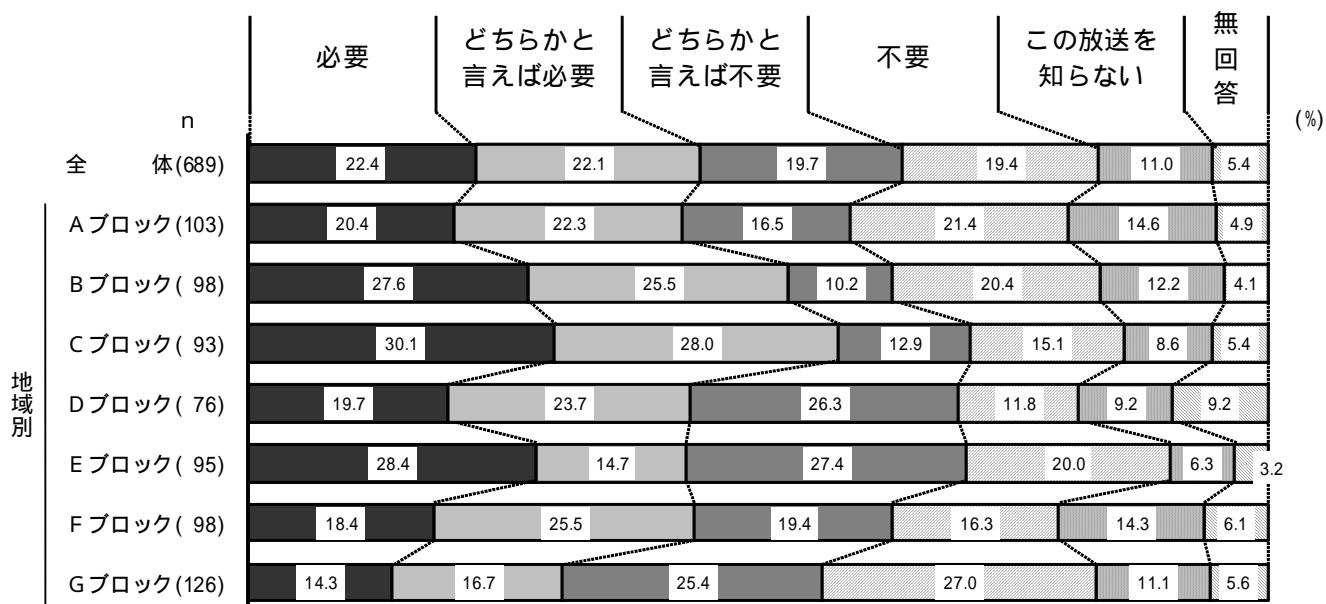
<図表7-20> 市行事の開催・中止のお知らせの必要性/地域別



(キ) 横田基地内での大音響によるサイレン訓練の必要性

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】の割合はCブロック(58.1%)で最も割合が高く約6割となっている。Gブロック(31.0%)では約3割と他の地域と比べて低い割合を示す。「不要」、「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】はGブロック(52.4%)で約半数となり、Eブロック(47.4%)でも5割弱となっている。【不要】の割合は、現在放送中のものとして尋ねた全項目の中で最も高い割合を示したほか、「この放送を知らない」の割合も他の項目と比べて高くなっている。(図表7-21)

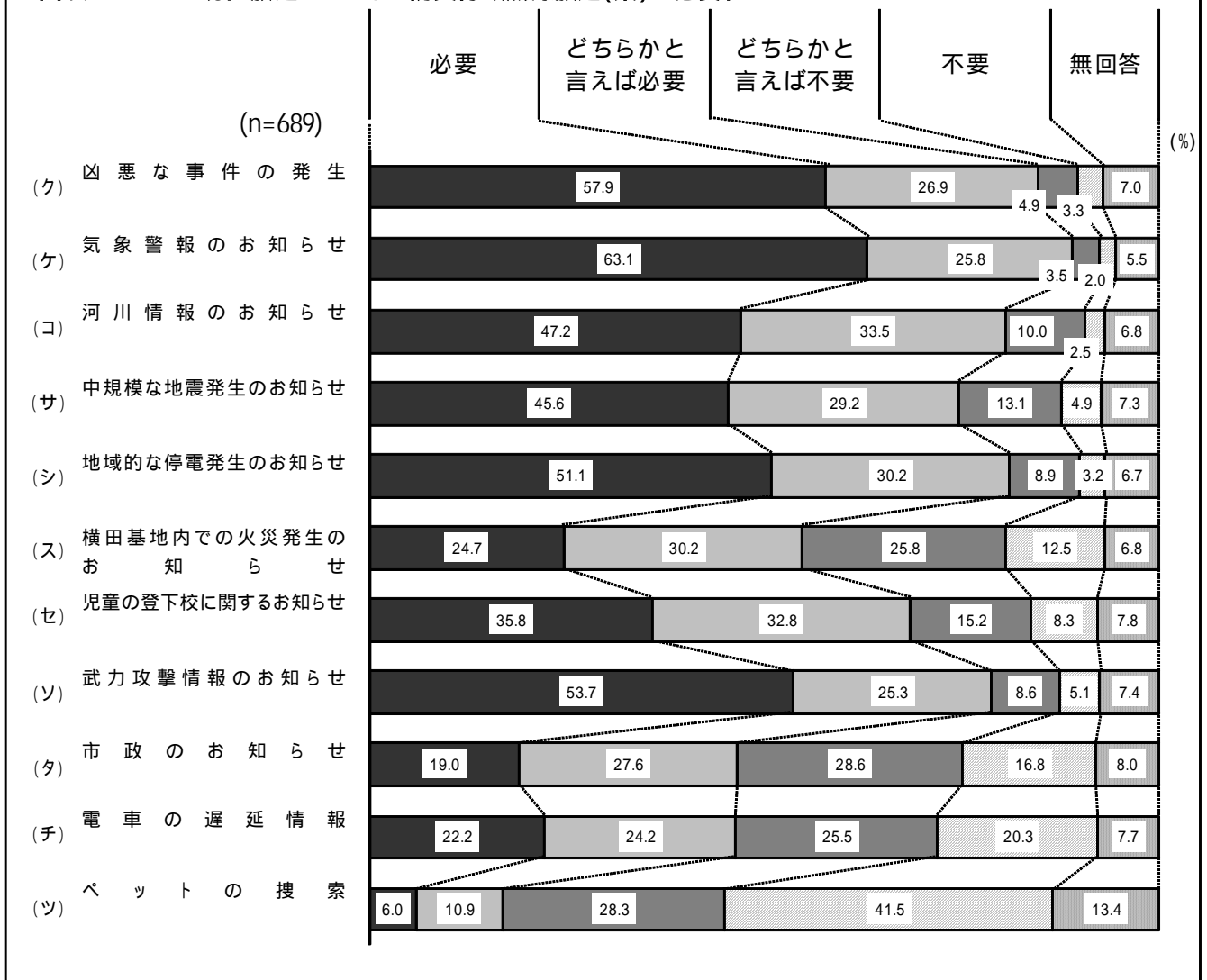
<図表7-21> 横田基地内での大音量によるサイレン訓練の必要性 / 地域別



(6) その他の防災行政無線放送と、新しい放送内容案の必要性(現在放送していないもの)
 気象警報のお知らせで「必要」が6割台

問21 次の防災行政無線による放送について、どのように思いますか。次の(ア)から(ツ)の項目について、それぞれ1つずつ選んで下の表の中の番号に をつけてください。

<図表7-22> 現在放送していない防災行政無線放送(案)の必要性



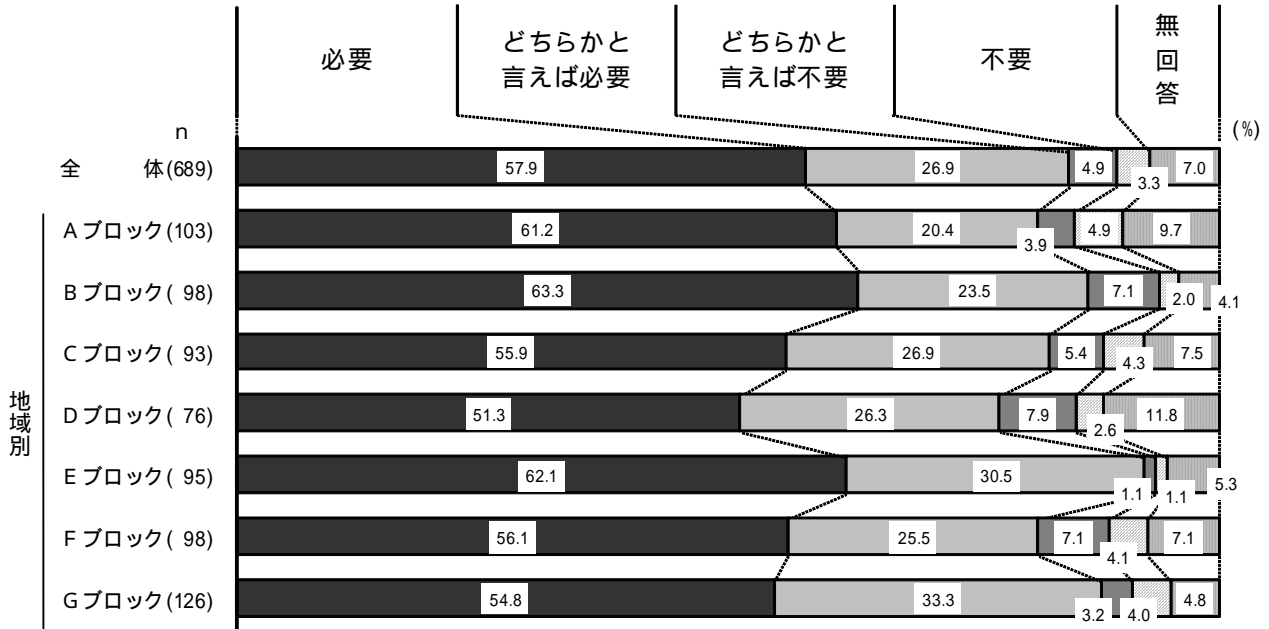
防災行政無線放送のうち、現在放送していないものの必要性を尋ねた結果、気象警報のお知らせで「必要」(63.1%)が6割台となり、最も高い割合を示した。これに、「どちらかと言えば必要」(25.8%)を合わせた【必要】(88.9%)が8割台後半となった。『ペットの捜索』で「不要」(41.5%)が約4割と最も高い割合を示し、これに「どちらかと言えば不要」(28.3%)を合わせた【不要】(69.8%)は、全項目中で最も高い割合を示した。(図表7-22)

以下、それぞれの項目について地域別でみる。

(ク) 凶悪な事件の発生の必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は、Eブロック(92.6%)で9割を超え最も高い割合を示し、その他の地域でも8割以上となっている。(図表7-23)

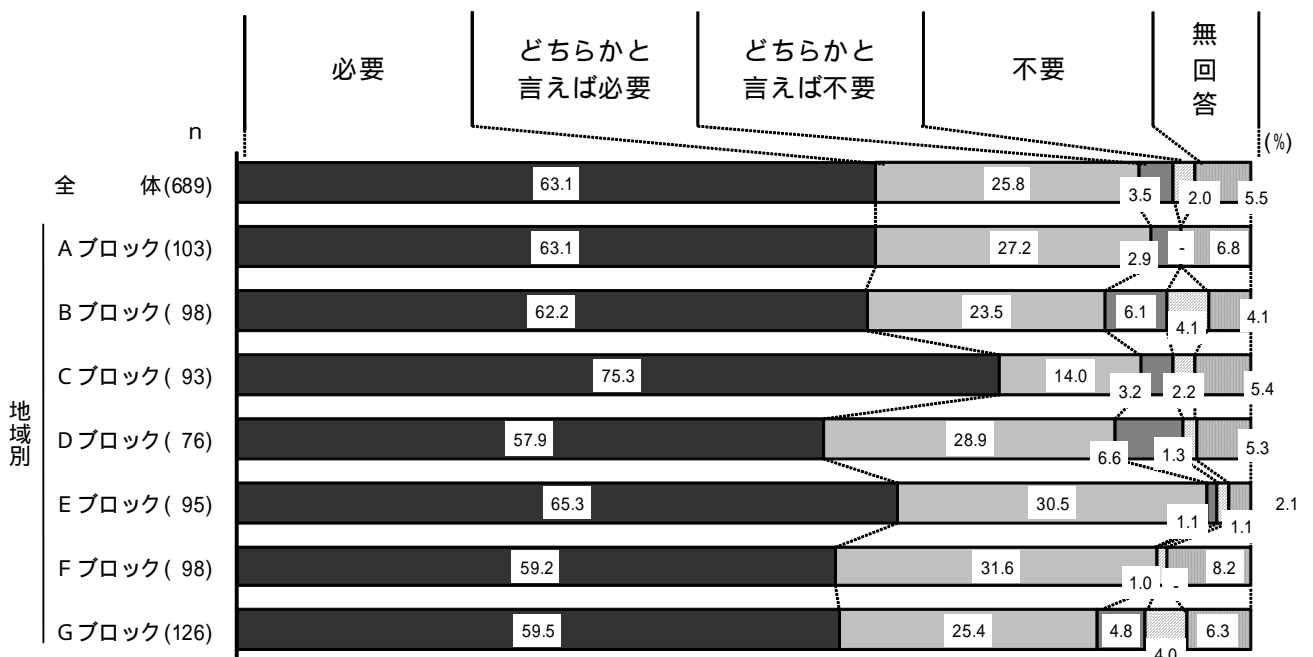
<図表7-23> 凶悪な事件の発生についての必要性/地域別



(ケ) 気象警報のお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は、Eブロック(95.8%)で9割半ばとなり最も高い割合を示し、その他の地域でも8割以上となっている。(図表7-24)

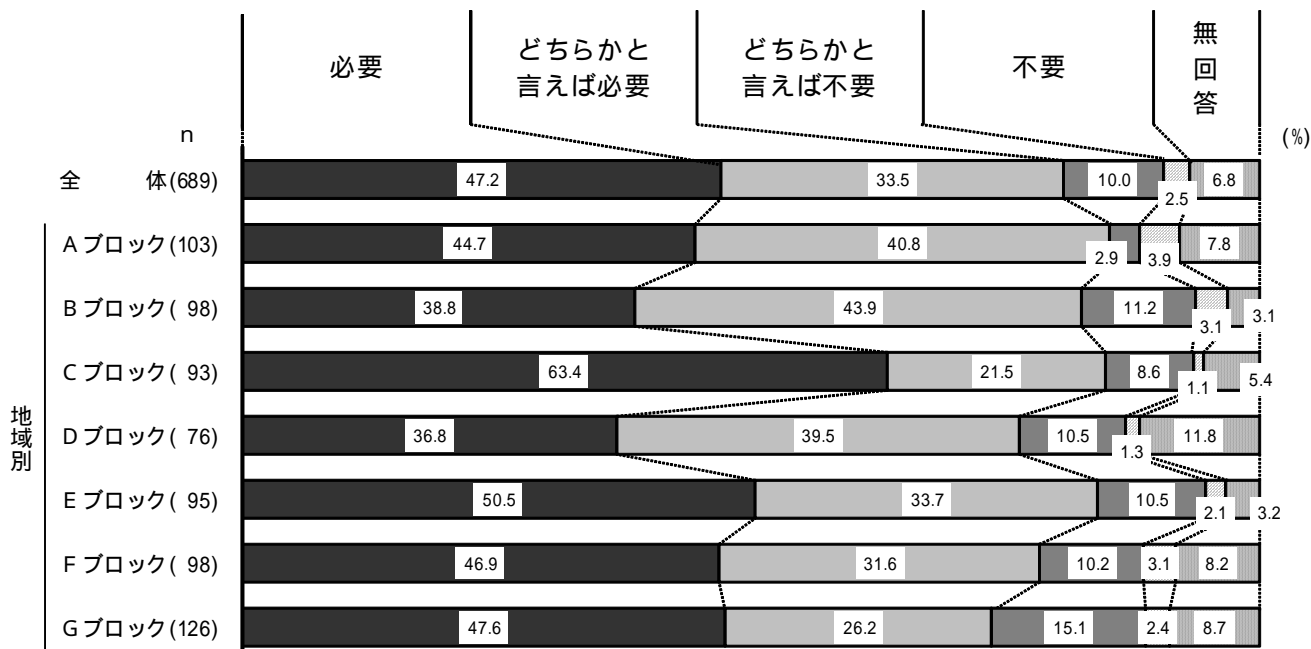
<図表7-24> 気象警報のお知らせの必要性/地域別



(コ) 河川情報のお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は、Aブロック(85.5%)で最も割合が高く8割半ばとなった。「不要」と「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】は、Gブロック(17.5%)で1割代後半となっている。(図表7-25)

<図表7-25> 河川情報のお知らせの必要性 / 地域別

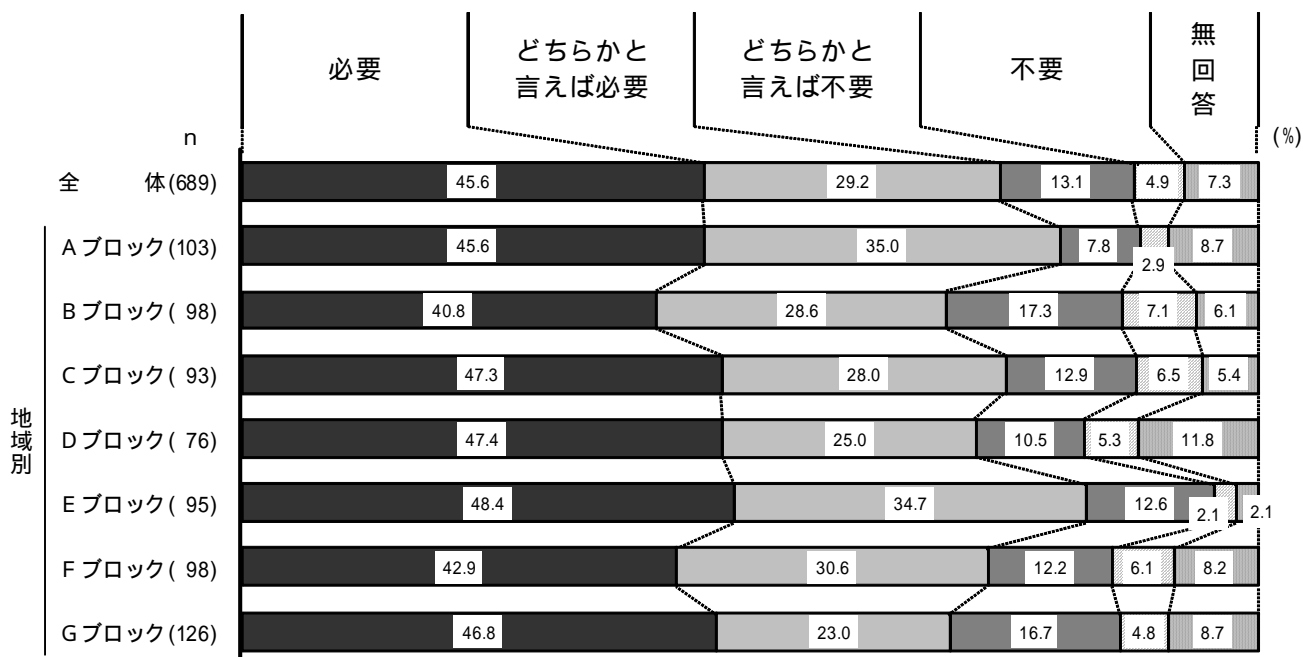


(サ) 中規模な地震発生のお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は、Eブロック(83.1%)が最も割合が高く8割強となった。「不要」、「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】Bブロック(24.4%)で2割半ばとなったほか、Gブロック(21.5%)、Cブロック(19.4%)でも約2割となっている。

(図表7-26)

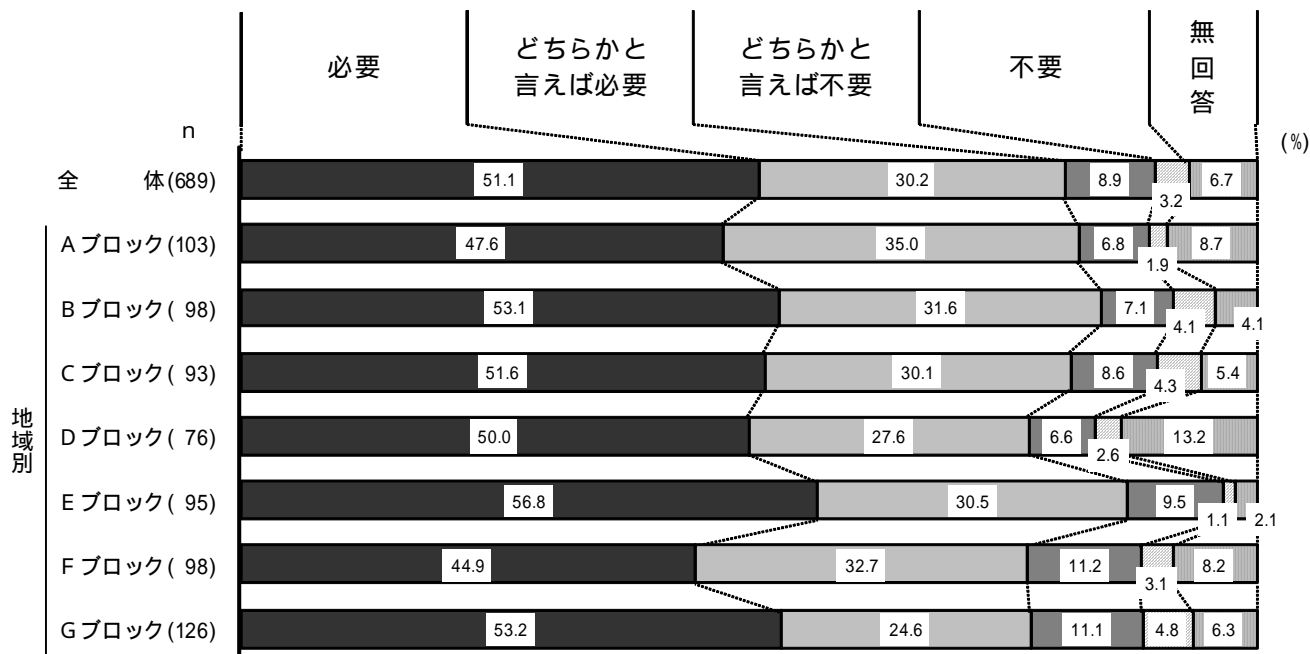
<図表7-26> 中規模な地震発生のお知らせの必要性 / 地域別



(シ) 地域的な停電発生のお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はEブロック(87.3%)で最も割合が高くなっている。「不要」と「どちらかと言えば不要」はFブロック(14.3%)とGブロック(15.9%)で1割半ばなった。(図表7-27)

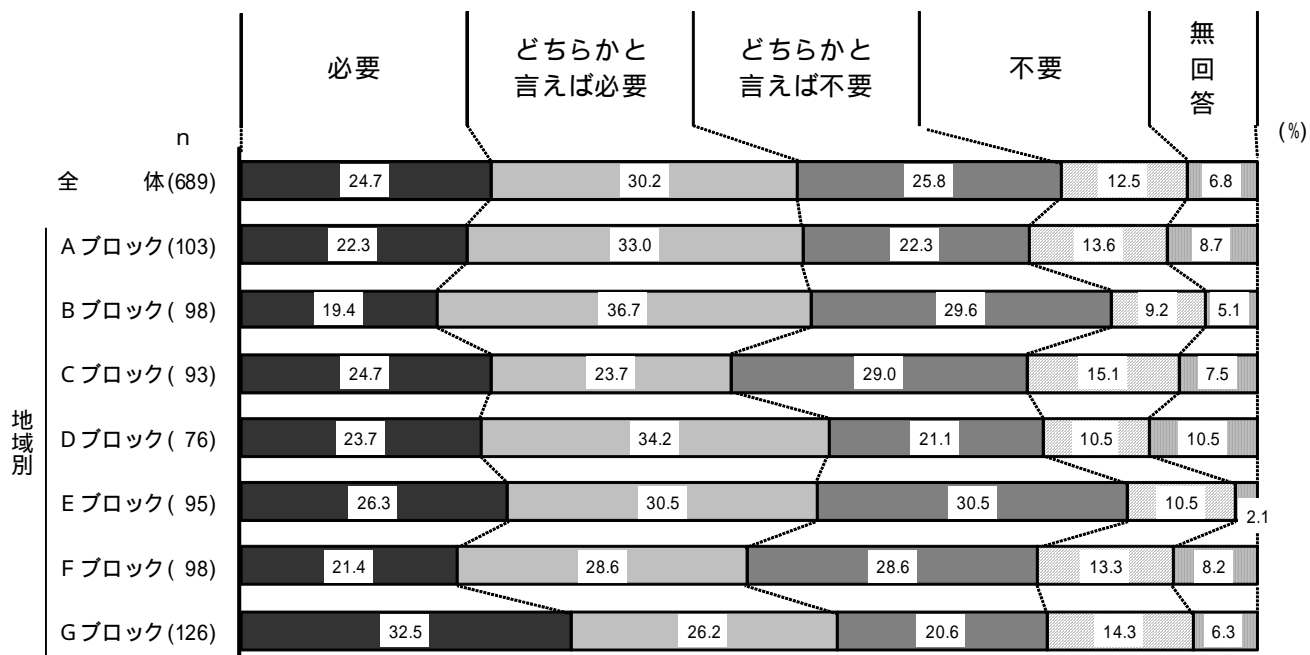
<図表7-27>地域的な停電発生のお知らせの必要性/地域別



(ス) 横田基地内での火災発生のお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はCブロック(48.4%)で5割を下回った以外は概ね5割以上となっている。「不要」、「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】Cブロック(44.1%)が最も割合が高く4割半ば、Eブロック(41.0%)、Fブロック(41.9%)でも4割を超えている。(図表7-28)

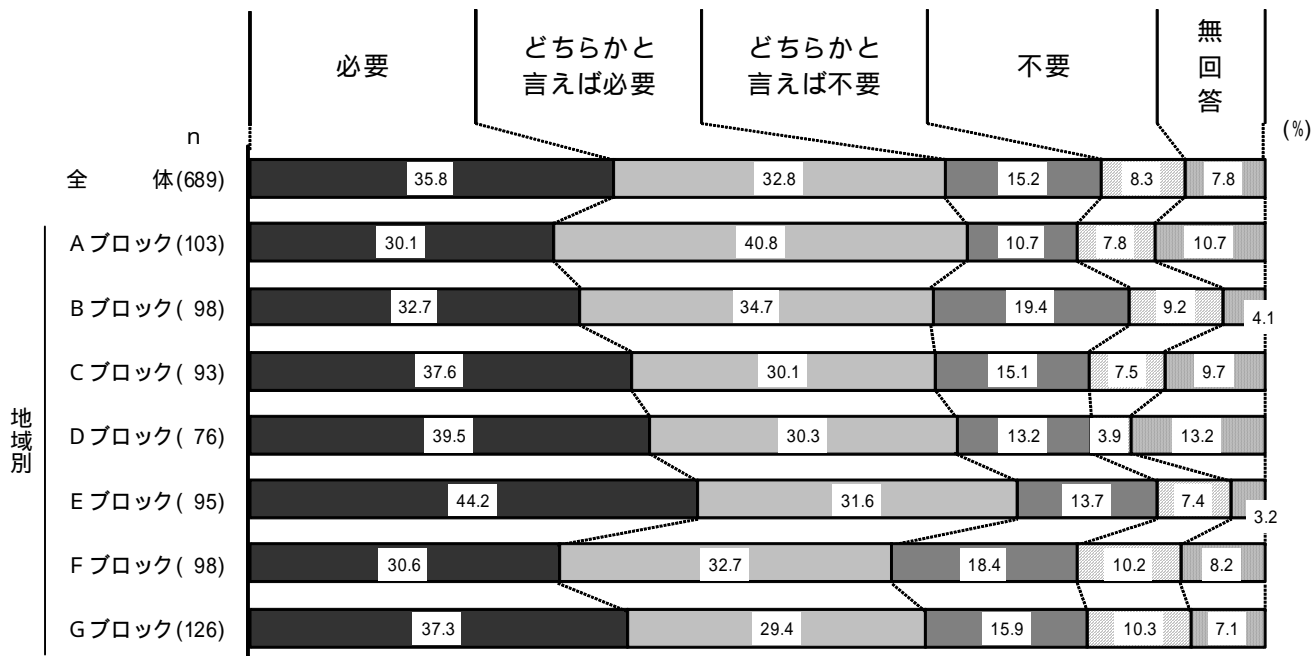
<図表7-28>横田基地内での火災発生のお知らせの必要性/地域別



(セ) 児童の登下校に関するお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はEブロック(75.8%)が最も割合が高く、Aブロック(70.9%)とともに7割を超えている。(図表7-29)

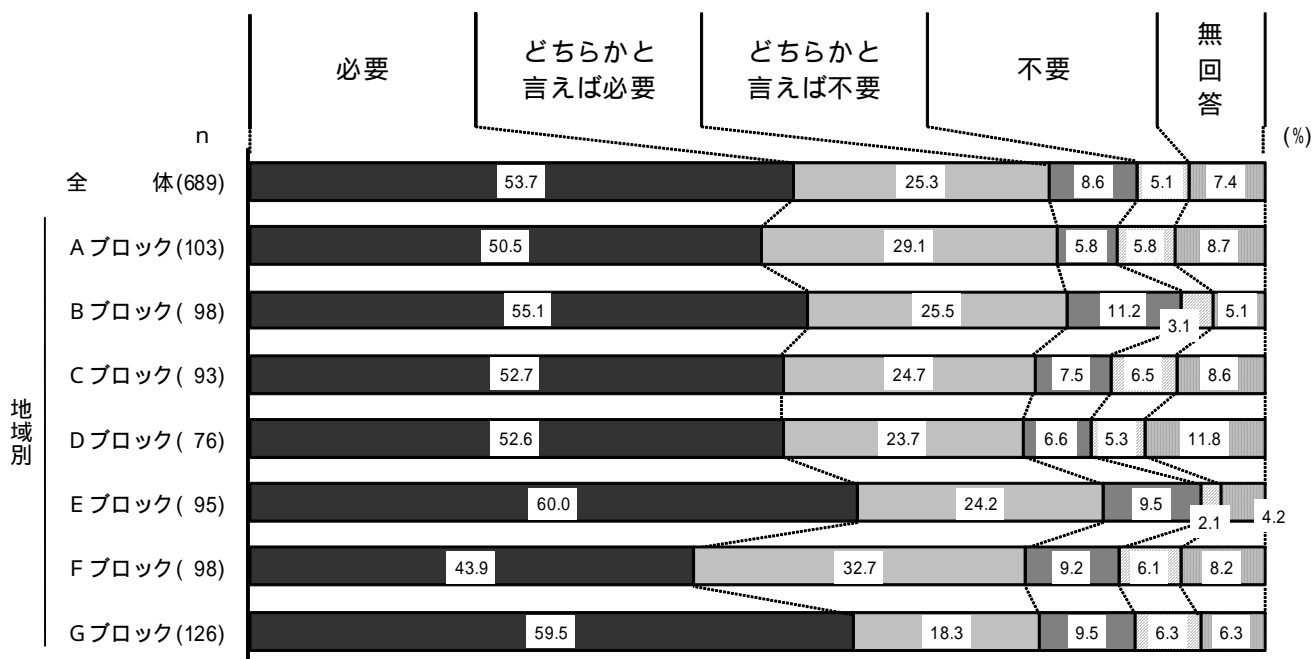
<図表7-29> 児童の登下校に関するお知らせの必要性/地域別



(ソ) 武力攻撃情報のお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は、Eブロック(84.2%)が最も割合が高く、8割半ばとなったほか、Bブロック(80.6%)でも8割を超えている。(図表7-30)

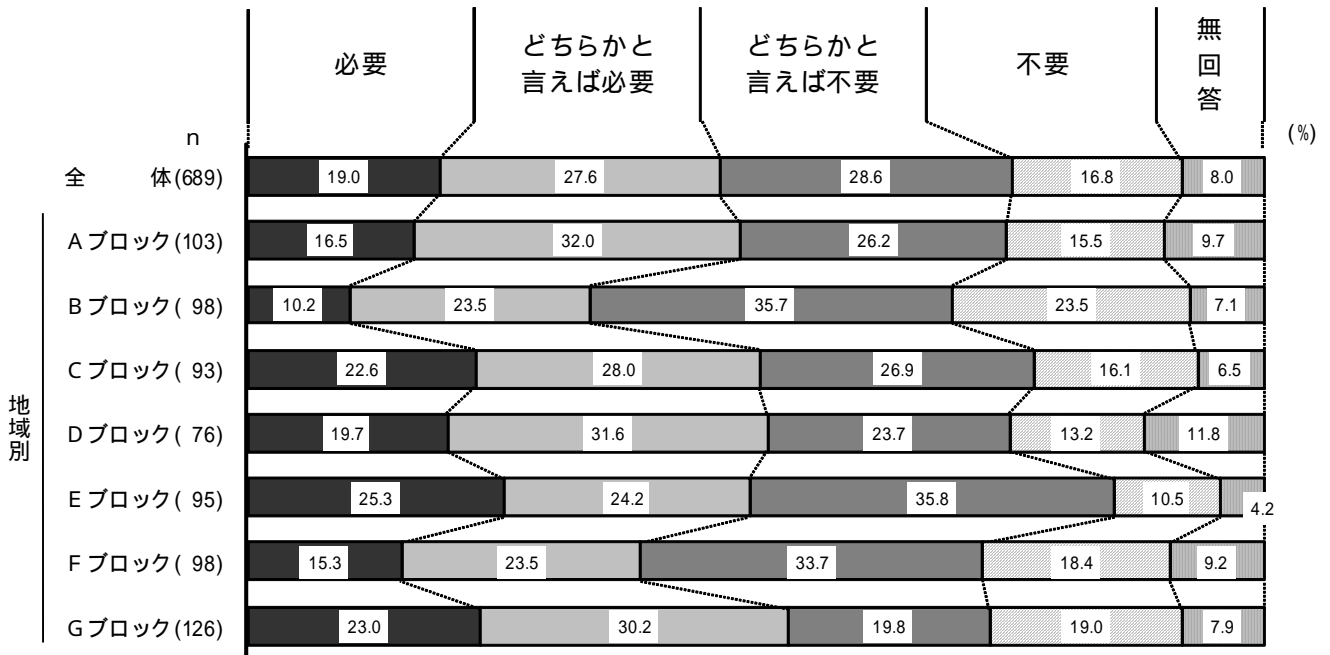
<図表7-30> 武力攻撃情報のお知らせの必要性/地域別



(タ) 市政に関するお知らせの必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はGブロック(53.2%)が最も割合が高く5割前半、Cブロック(50.6%)、Dブロック(51.3%)でも5割を超えている。「不要」、「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】はBブロック(59.2%)が約6割と最も高い割合を示し、Fブロック(52.1%)でも5割を超えている。(図表7-31)

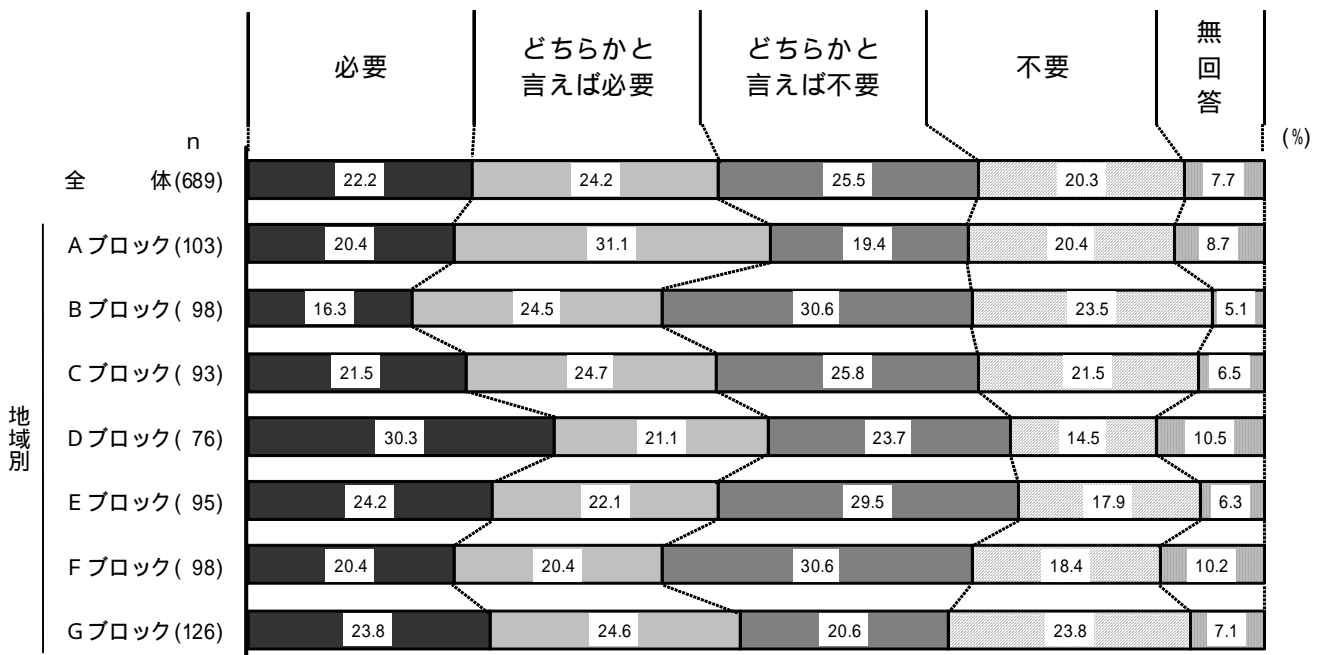
<図表7-31> 市政に関するお知らせの必要性 / 地域別



(チ) 電車の遅延情報の必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】は、Aブロック(51.5%)とDブロック(51.4%)で5割を超えたほかは4割代となっている。「不要」と「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】はBブロック(54.1%)で5割半ばとなった。(図表7-32)

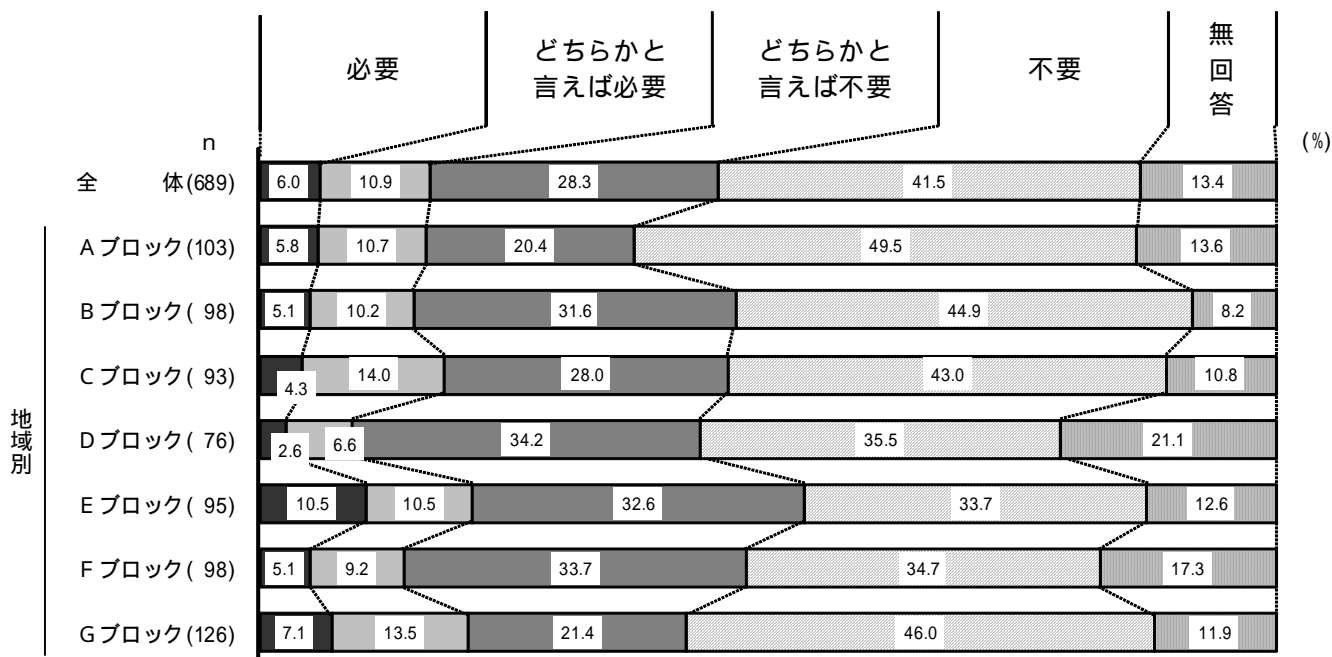
<図表7-32> 電車の遅延情報の必要性 / 地域別



(ツ) ペットの搜索の必要性について

「必要」、「どちらかと言えば必要」を合わせた【必要】はEブロック(21.0%)とGブロック(20.6%)で2割を超えたほかは1割台半ばから約1割の間となっている。「不要」と「どちらかと言えば不要」を合わせた【不要】は全ての地域で6割を超え、Bブロック(76.5%)、Cブロック(71.0%)では7割代となっている。現在放送していないものとして尋ねた全項目中で「必要」、「どちらかと言えば必要」の割合は最も低く、「不要」、「どちらかと言えば不要」の割合は最も高かった。(図表7-33)

<図表7-33> ペットの搜索の必要性 / 地域別



(テ) その他の放送について

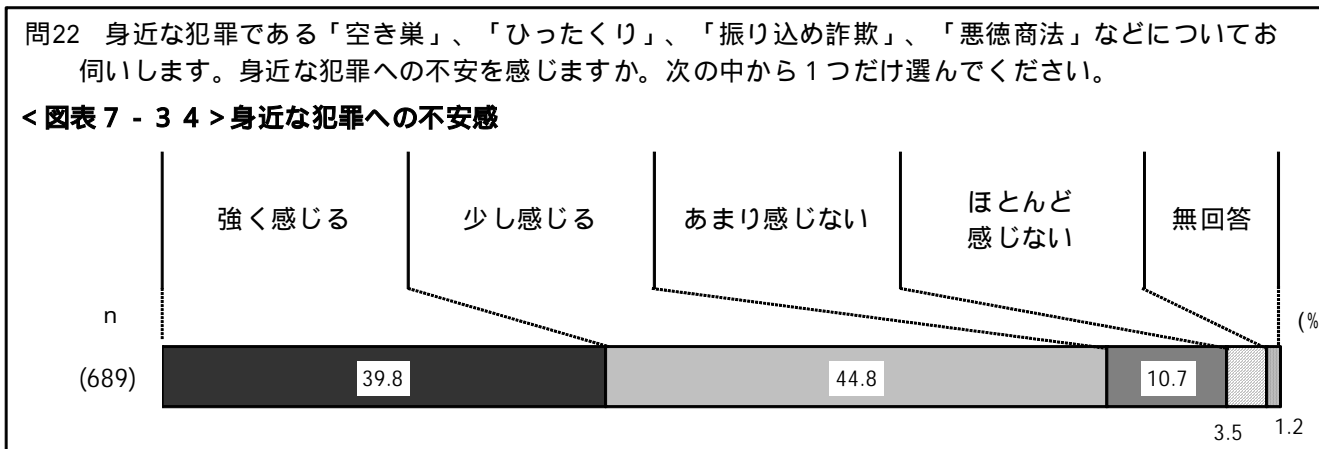
その他の放送についてとして自由回答形式で回答を求めたところ11件の回答があった。“聞こえにくい(ことがある)”が最も多く(3件)、“凶悪な犯罪についてのお知らせは放送することによってさらに凶悪になる恐れも”、“放送の乱用は、市民の注意力低下につながる”、“事件・事故等の目撃情報の提供を求める放送”、“雨雲発生”、“地震関連の放送は強化して欲しい”、“火災時発生時は住所だけでなく目標地点も放送して欲しい”、“全てメール等インターネット配信でも良いのでは”などとなった。

(7) 身近な犯罪への不安

「強く感じる」と「少し感じる」を合わせた不安を【感じる】の割合が8割台

問22 身近な犯罪である「空き巣」、「ひったくり」、「振り込め詐欺」、「悪徳商法」などについてお伺いします。身近な犯罪への不安を感じますか。次の中から1つだけ選んでください。

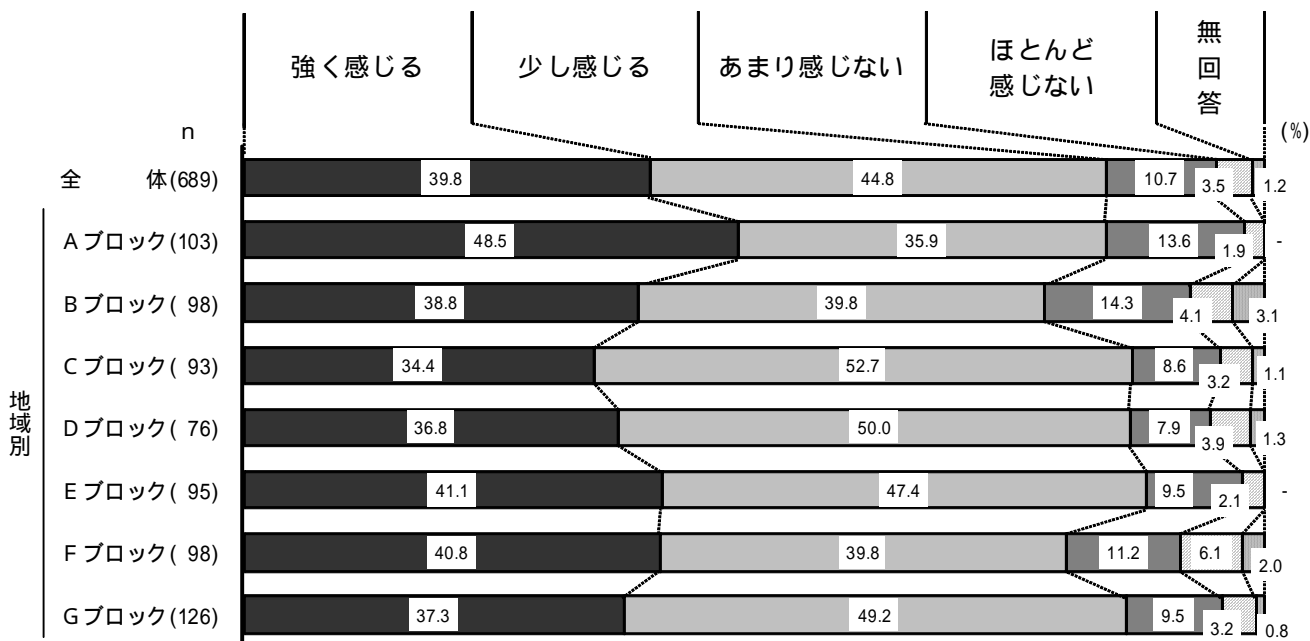
< 図表 7 - 3 4 > 身近な犯罪への不安感



身近な犯罪への不安感について尋ねたところ、「強く感じる」(39.8%)と「少し感じる」(44.8%)を合わせた【感じる】(84.6%)が8割半ば、「あまり感じない」(10.7%)と「ほとんど感じない」(3.5%)を合わせた【感じない】(14.2%)が1割半ばとなった。(図表7-34)

地域別にみると、「強く感じる」はAブロック(48.5%)で5割弱と最も高い割合を示し、「強く感じる」と「少し感じる」を合わせた【感じる】の割合はEブロック(88.5%)が9割弱と最も高い割合を示した。(図表7-35)

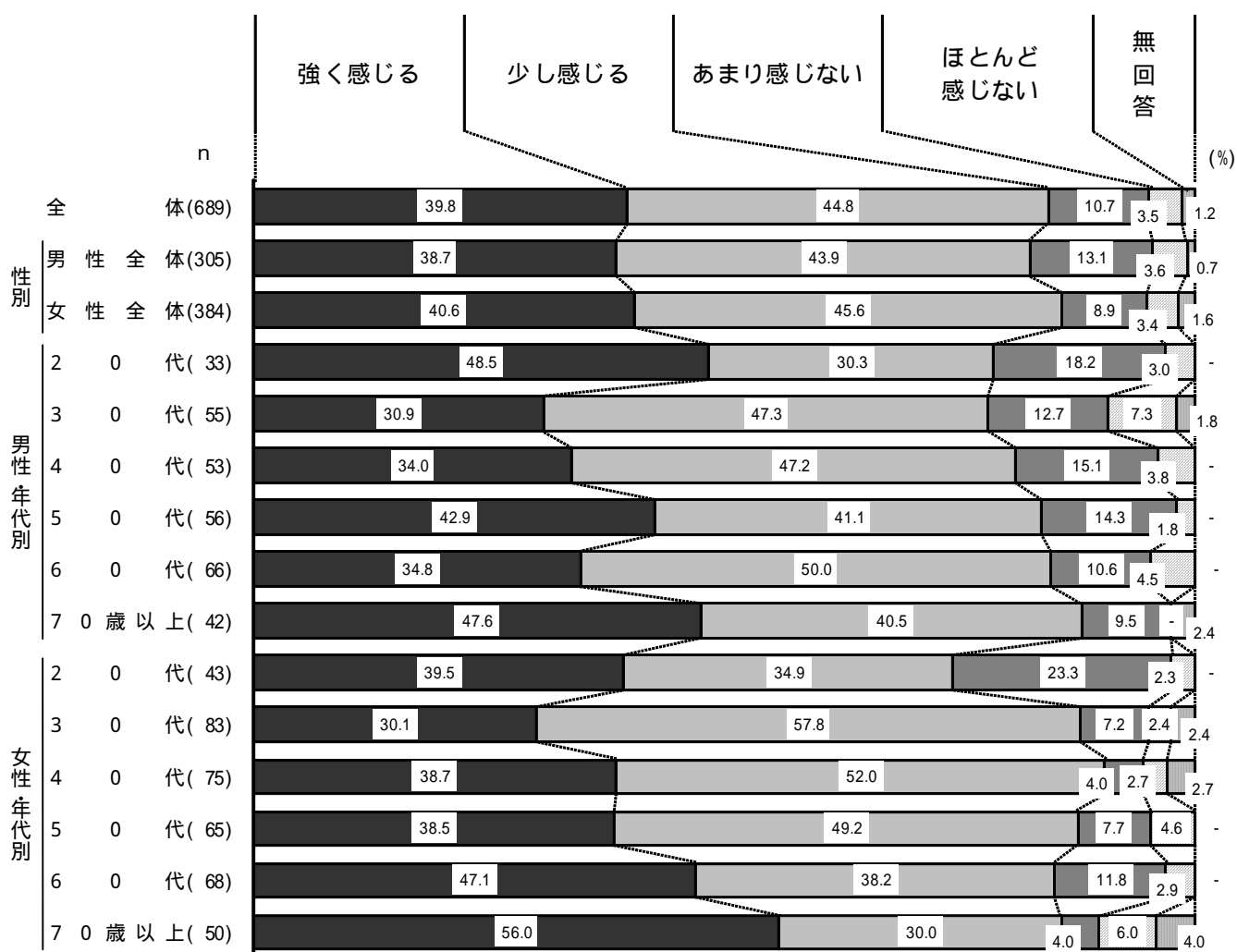
< 図表 7 - 3 5 > 身近な犯罪への不安感 / 地域別



性別、性・年代別で見ると、「強く感じる」は、男女ともに30代で約3割と最も低い割合（男性：30.9%、女性：30.1%）を示し、男性の20代と70歳以上、女性の60台と70歳以上で約5割（男性20代：48.5%、男性70歳以上：47.6%、女性60代：47.1%、女性70歳以上：56.0%）となった。

「あまり感じない」の割合は、女性20代（23.3%）で最も割合が高く、男性20代（18.2%）とともに他の年代より若干高い割合を示した。（図表7-36）

< 図表7-36 > 身近な犯罪への不安感 / 性別、性・年代別

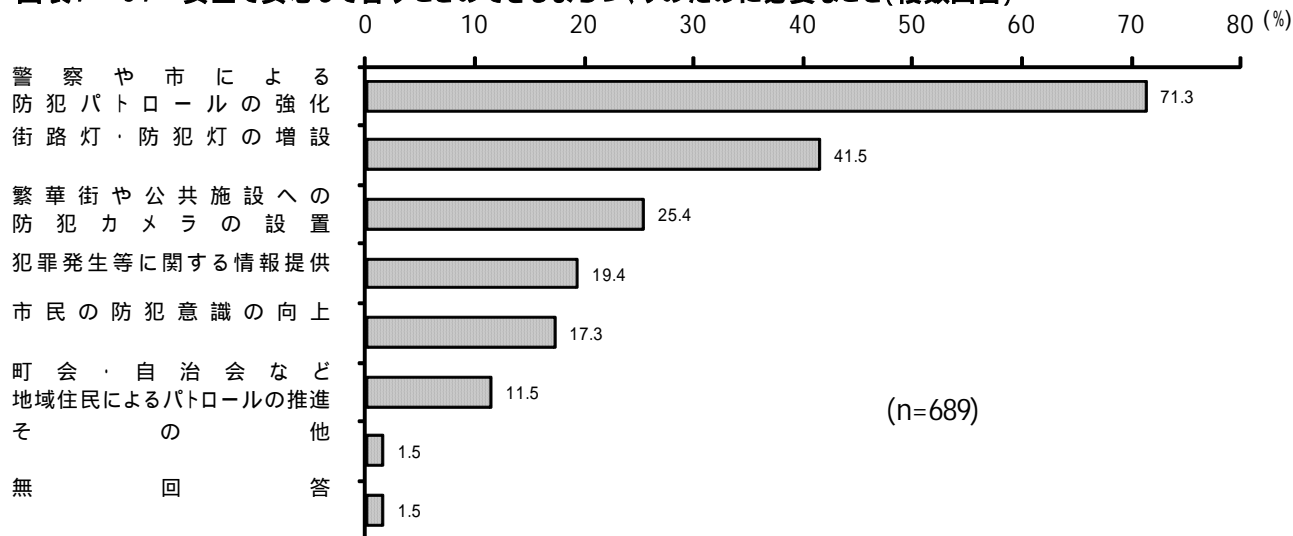


(8) 安全で安心して暮らすことのできるまちづくりのために必要なこと

「警察や市による防犯パトロールの強化」が約7割

問23 安全で安心して暮らすことができるまちづくりのために、あなたが必要だと思う防犯対策は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

<図表7-37> 安全で安心して暮らすことのできるまちづくりのために必要なこと(複数回答)



安全で安心して暮らすことのできるまちづくりのために必要なことを尋ねたところ、「警察や市による防犯パトロールの強化」(71.3%)が最も割合が高く、約7割となった。以下、「街路灯・防犯等の増設」(41.5%)が約4割、「繁華街や公共施設への防犯カメラの設置」(25.4%)、「犯罪発生等に関する情報提供」(19.4%)、「市民の防犯意識の向上」(17.3%)、「町会・自治会などの地域住民による防犯パトロールの推進」(11.5%)となった。(図表7-37)

性別、性・年代別で見ると、「警察や市による防犯パトロールの強化」は男性の70歳以上（92.9%）で最も割合が高く、女性は各年代で7割前後となった。「街路灯・防犯灯の増設」は男性全体（36.4%）より女性全体（45.6%）が約1割程度高い割合を示した。（図表7-38）

<図表7-38>安全で安心して暮らすことのできるまちづくりのために必要なこと/性別、性・年代別

